



aprilia part# 861452

use+maintenancebook



安全に関するお知らせ

本マニュアル中使用されている以下のメッセージ表示は、それぞれ次のようなことを表します：



安全に関する警告のマークです。
このマークが車体もしくはマニュアルに記載されている場合には、**傷害の危険がありますので注意してください。**このマークのあとに記されている事項を遵守しないと、本人、第三者および車体の危険を招く恐れがあります。

⚠ 危険

重大な傷害もしくは死亡の危険性があることを表します。

⚠ 注意

軽度の傷害もしくは車体への損傷の危険性があることを表します。

重要： 本マニュアル中の " 重要 " という用語は、大切なインフォメーションや使用上の注意のはじめに記されています。

テクニカルインフォメーション

★ このマークの付いた作業は、車体の反対側からも行う必要があります。

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。

" 右 " または " 左 " と書いてある場合、ライダーが車両に乗った状態から見ての左右を示します。

警告 - 注意 - 一般的注意事項

エンジンを起動させる前に本マニュアル、特に " 安全運転 " の章をよく読んでください。

ライダーおよび第三者の安全は、ライダーの反応の素早さや機敏さだけでなく、車体機能の理解、車両の整備状態、また安全運転のための基本的知識などにより確保されます。路上を安全、かつ適確に走行するためには、車両によく慣れる事が必要です。

重要： それぞれの種類に合った電球を準備しておいて下さい (テクニカルデータ参照)。

発行と印刷：
VALLEY FORGE DECA
Ravenna, Modena, Torino

DECA s.r.l.
登録事務所および管理部
Via Vincenzo Giardini, 11
48022 Lugo (RA) - Italia -
Tel. +39 - 0545 - 216611
Fax +39 - 0545 - 216610
www.vftis.com
deca@vftis.spx.com

監修：
Piaggio & C. S.p.A.
via G. Galilei, 1 - 30033 Noale (VE) - Italia
Tel. +39 - 041 58 29 111
Fax +39 - 041 44 10 54
www.aprilia.com

重要： このマニュアルは車体構成の一部とみなされ、売却の際にも必要です。

aprilia は情報の正確さ、最新情報に関して最大限の注意を払い、このマニュアルを作成しました。最新情報と正確なデータに最大限の注意を払いこのマニュアルを作成していますが、デザインやモデル改良が常に行われるため、購入された車両との多少の違いが有る場合があります。

本マニュアルに記載されている情報に関する詳細や疑問は最寄の **aprilia** 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。

このマニュアルでは詳しく記述していない点検や修理、aprilia オリジナルパーツ、アクセサリパーツ、その他の製品の購入に関してはもちろん、技術的アドバイスについても aprilia 正規ディーラーにご相談ください。

aprilia 社の製品をお選びいただき、まことにありがとうございます。
当社車両でお客様が快適なライディングができるよう心がけております。

このマニュアルの電子記憶、複製、流用に対しては、全面的・部分的に関わらず、またその媒体、国籍を問わず、当社が権利を保有しています。

重要： 使用する国によっては公害防止、防音規制のために定期的検査が行う必要があります。

定期的検査が行われる国で車両をお使いの方は：

- その国の規制に適合した部品と交換する為、**aprilia** 社オフィシャルディーラーまでお問い合わせ下さい。
- 定められた定期検査を行ってください。

重要： 車両購入後、「スペアパーツ識別ラベル」に記載された車体識別データを下表に記入してください。ラベルはフレーム右側上部パイプについています。読み取るには、中央フェアリングを取り外す必要があります、52 ページ (ライダーシートを取り外し)、53 ページ (サイドフェアリングの取り外し) 参照。

aprilia					YEAR				
SPARE PARTS IDENTIFICATION					I.M.				
I	UK	A	P	SF	B	D	F	E	GR
NL	CH	DK	J	SGP	SLO	IL	ROK	MAL	RCH
HR	AUS	USA	BR	RSA	NZ	CDN			

識別データは次のとおりです：

- YEAR = 製造年 (Y, 1, 2, ...)
 - I.M. = 修正コード (A, B, C, ...)
 - COUNTRY CODES = 承認を受けている国 (I, UK, A, ...)
- ご使用のモデルに合ったスペアパーツやアクセサリを購入するにはこれらのデータを **aprilia** 社オフィシャルディーラーにお知らせください。

説明文中に出てくるシンボルは以下の意味を示します。

OPT オプションパーツ

各国向け仕様：

I	イタリア	SGP	シンガポール
UK	イギリス	SLO	スロベニア
A	オーストリ	IL	イスラエル
P	ポルトガル	ROK	韓国
SF	フィンラン	MAL	マレーシア
B	ベルギー	RCH	チリ
D	ドイツ	HR	クロアチア
F	フランス	AUS	オーストラリア
E	スペイン	USA	アメリカ
GR	ギリシャ	BR	ブラジル
NL	オランダ	RSA	南アフリカ共和国
CH	スイス	NZ	ニュージーランド
DK	デンマーク	CDN	カナダ
J	日本		

目次

安全に関するお知らせ	2
テクニカルインフォメーション	2
警告・注意・一般的注意事項	2
目次	4
基本安全ルール	6
服装	9
アクセサリ	10
主要部品の配置	12
操作装置とメーター類の配置	14
メーターパネル	15
計器およびインジケーター類（表）	16
マルチ機能コンピューター	18
バッテリー電圧	21
主要操作装置	23
左側ハンドルグリップ	23
右側ハンドルグリップ	24
イグニッションスイッチ	25
ステアリングロック	25
補助装備	26
書類／ツールキット入れトランク	26
専用ツール OPT	26
主要部品	27
燃料	27
ギアボックスオイル	27
ブレーキオイル - 注意事項	28
ディスクブレーキ	28
フロントブレーキ	29
リアブレーキ	30
ミキサーオイルタンク	31
クラッチの調整	31
冷却液	32
タイヤ	33
触媒サイレンサー	34
車両使用上の注意	35
走行前の点検	35
エンジンの始動	36
発進と走行	38
慣らし運転	41
停車	41
パーキング	41
盗難防止のために	42

メンテナンス	43
定期管理表	44
車体識別データ	47
フロントサポートスタンドの立て方 OPT OPT	47
リアサポートスタンドの立て方 OPT	48
ギアオイルレベルの点検および補充	49
ギアボックスオイルの交換	50
ドライブチェーン	51
ライダーシートの取り外し	52
パッセンジャーシートの取り外し	53
サイドフェアリングの取り外し	53
ロアタグの取り外し	53
燃料タンクの移動	54
フロント／リアサスペンションの点検	55
パッドの磨耗点検	55
アイドリングの調整	56
スロットルコントロールの調整	57
スパークプラグ	57
バッテリー	58
バッテリーを長期間使用しない時	58
ターミナルおよび電極の点検と清掃	59
バッテリーの取り外し	59
バッテリーの充電	59
バッテリーの取り付け	59
ヒューズの交換	60
マフラーおよび	
エキゾーストサイレンサーの清掃	60
サイドスタンドの点検	61
スイッチ類の点検	61
ヘッドランプ光軸の垂直調整	62
電球	62
ヘッドランプ電球の交換	63
フロント／リアターンインジケーターランプ電球	64
の交換	64
テールランプ電球の交換	64
輸送の際の注意事項	65
燃料の抜き取り	65
清掃	66
長期間の未使用	67
テクニカルデータ	68
指定油脂類表	71
正規ディーラーおよびサービスセンター	72

aprilia



安全運転のために



基本安全ルール

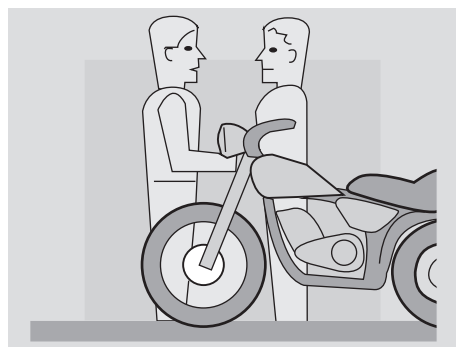
乗物を運転するためには、法律によって定められた必要条件全てを所持することが必要です（運転免許証、年齢、精神的・身体的能力、保険証、車両登録証、納税証明、ナンバープレートその他）。

まずは交通量の少ないところ、または私有地などを利用し、車両になれるようにしましょう。



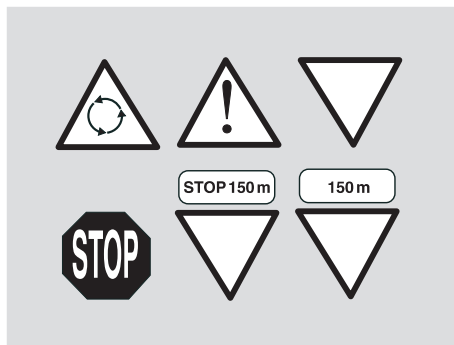
医薬品、アルコール、麻薬、精神安定剤などの服用は交通事故を起こす原因となります。

精神的、体力的に運転できる状態か、睡眠を十分に取ったかなどを自分で確認するようにしましょう。



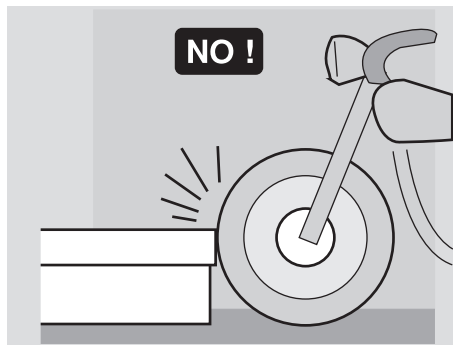
路上事故のほとんどは運転手の経験不足が原因です。

車両を絶対初心者に貸さないでください。貸す場合は運転するための必要書類、および資格を全て保持している事を確かめてください。



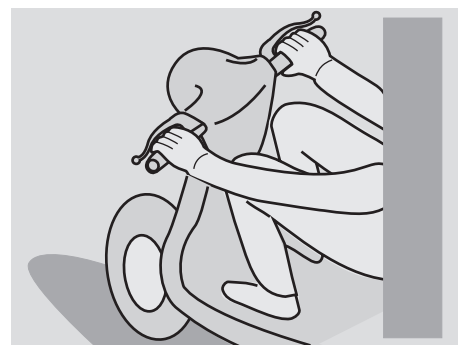
国や自治体が定めた道路交通法、交通標識を守り運転してください。

自分や第三者に危険なハンドルさばき（例：前輪を浮かせる、速度制限を守らない、など）を避けてください。路面や視界の状態の確認を常にしてください。



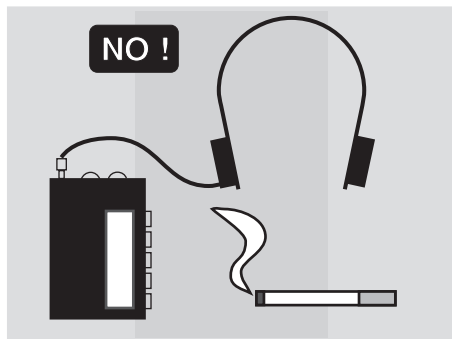
障害物を避けて走行してください。車両損傷の原因となったり、コントロールを失ったりする原因となります。

空気抵抗を減らす目的で、先行車のすぐ後ろを走行するようなことはしないで下さい。

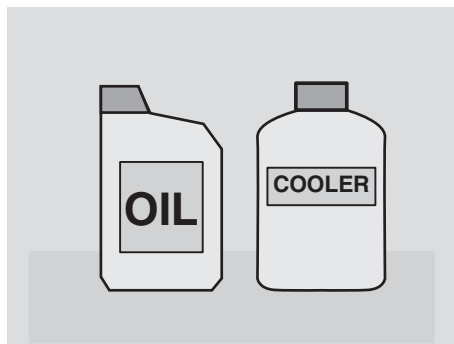


⚠ 危険

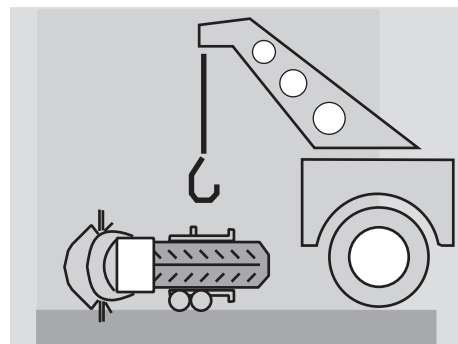
運転する時は常にハンドルから手を離さず、両足をステップまたはフットペグに乗せ、正しい姿勢で運転してください。運転中は絶対にシートから腰を上げたり、足を伸ばしたりしないでください。



運転中に周囲の人や物に気を取られたり、他の行為（喫煙、飲食、読書など）をすることはやめてください。



潤滑油表で定められた燃料、潤滑油のみを使用し、定期的に燃料、オイル、冷却液のレベルチェックを行ってください。

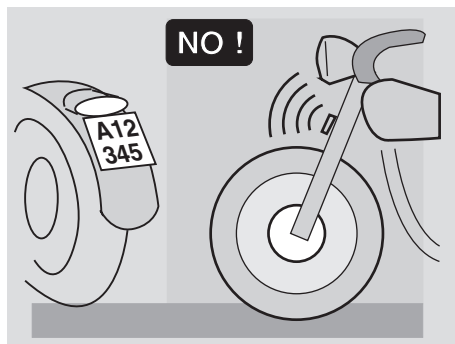


事故に巻き込まれ、衝突、車両転倒した場合は、コントロールレバー、パイプ、ワイヤー、ブレーキシステムなどの重要なパーツが損傷を受けていないか確認してください。

aprilia 社オフィシャルディーラー必要な場合は、フレーム、ハンドル、サスペンション、セキュリティ部門などは個人では十分に点検できないので、**aprilia** 正規ディーラーに点検を依頼してください。

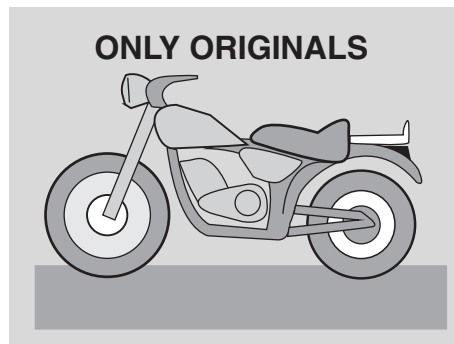
テクニカルサービスの調整、修理作業を万全に行なうために、どのような不具合も漏らさずお知らせください。

車両に損傷があり、安全走行が保証できない場合は絶対に車両を運転しないでください。



ポジション、角度を変えたり、ナンバープレート、ターンインジケーター、ライト、警告ホーンなどの色を変えたりしないでください。

車体の改造は保証契約を無効にします。



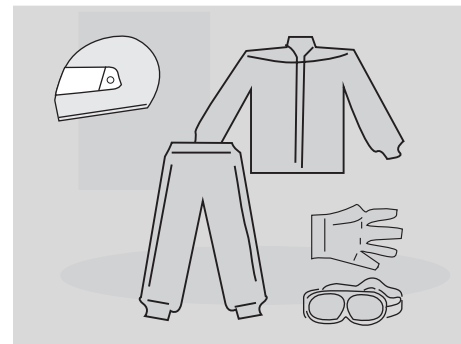
車体の改造、オリジナルパーツの取り外しは違法な上、車体の安全性を減少させます。

車両装備は国や自治体が定めた法律、規則に従うことを推奨します。

車両本来の仕様を変更したり、性能を向上させるための改造は絶対にしないでください。

他の車両との競争は決してしないでください。

道路外での走行を避けてください。

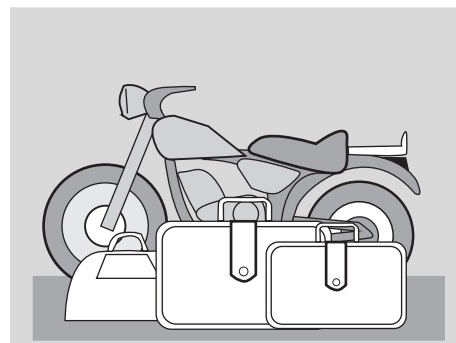
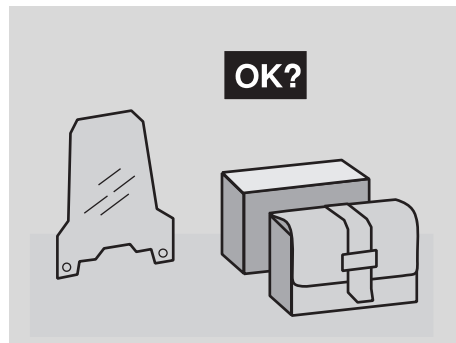
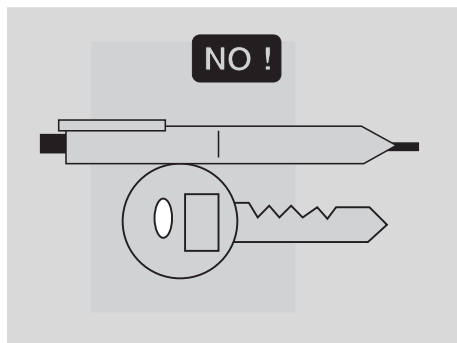


服装

出発前には必ずヘルメットをしっかりと着用してください。なお、ヘルメットは保安基準認定品で、損傷などがなく、形やサイズが適したものであり、視界に汚れのないことを確認してください。

服装は身体を保護する服を着用してください。転倒した場合でも他のドライバーから見えやすいように、なるべく明るい色、または反射素材の物がよく、体を十分に保護するものを選んでください。

服装は身体にぴったりするもので、手首、足首の部分が締まる形のものをお勧めします。紐、ベルト、ネクタイなどが緩んで走行中に可動部分に巻き込まれ、運転に支障を及ぼすことのないよう注意してください。



転倒の際に危険となるようなものをポケットに入れないでください。

例：キー、ペン、ガラス瓶など、先の尖ったもの。(同乗者についても同様です。)

アクセサリ

車両所有者は付属品の使用と設置、選択などのすべてに責任を持ってください。

付属品取り付けの際には、クラクションやライトなどを覆ったり、機能を損なわせたり、サスペンション・ストローク、操縦角度、車高などの制限を守らなかったり、コントロールを失ったり、コーナリング時の接地が低くなりすぎたりしないよう注意してください。

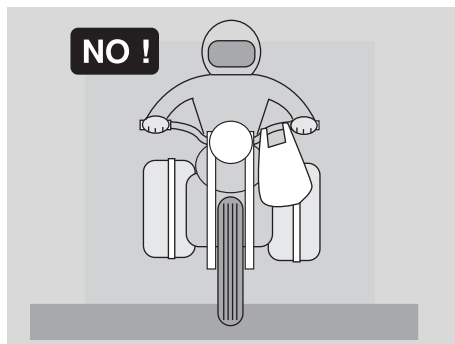
運転操作の邪魔になるようなアクセサリの使用は避けてください。緊急操作の際の反応時間を遅らせ、事故の原因になります。

大きすぎるフェアリング、フロントガラスなどの設置は高速走行時に空気抵抗が増し、車体の安定性が減少します。

危険を避けるため、付属品がしっかり設置されていることを常に確かめてください。

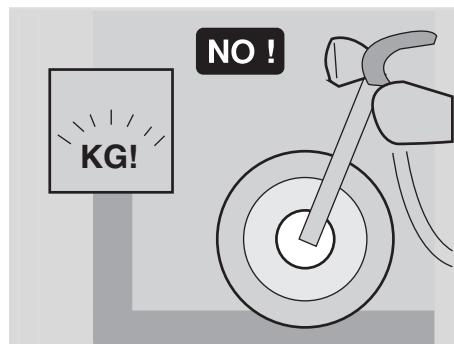
電流容量を超えるような電装パーツの追加、電気系統の改造はしないでください。電氣的負荷が過重になり、車両が突然停止したり、ライト類や警告ホーンの動作に必要な電流が不足する危険な事態を招きます。

aprilia はオリジナルアクセサリの使用を推奨します (**aprilia** genuine accessories)。



大きいもの、重いもの、危険なものをハンドル、マッドガード、フロントフォークなどに吊り下げないでください。カーブでの反応が鈍くなる他、操縦性が損なわれます。

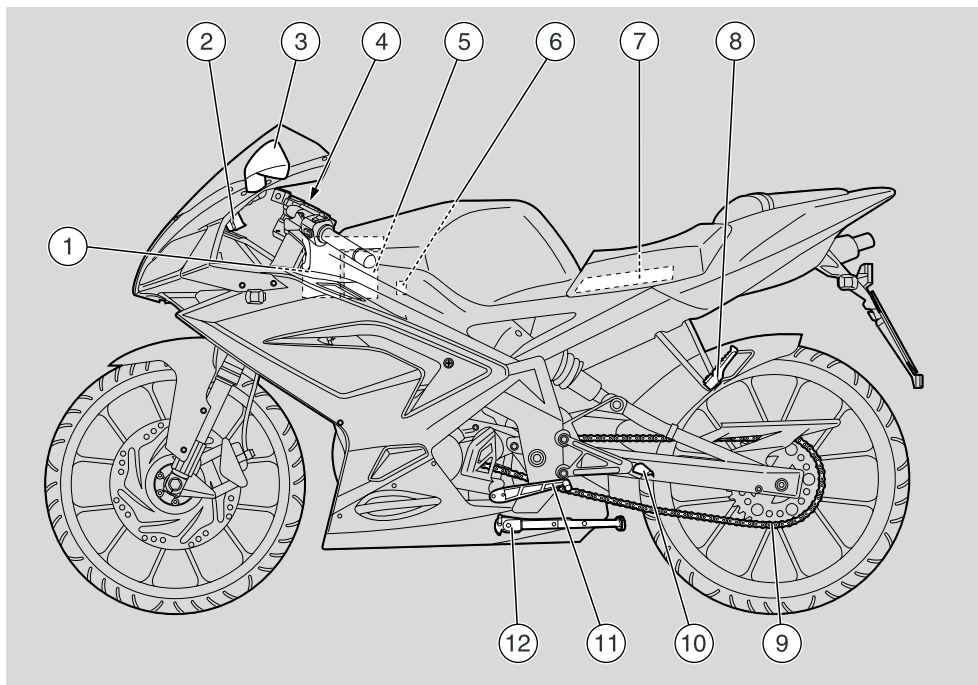
車体の両脇に重い荷物やヘルメットを掛けないで下さい。歩行者や障害物にあたって、車体のバランスを失う危険があります。



最大積載重量を越えないようにして下さい。

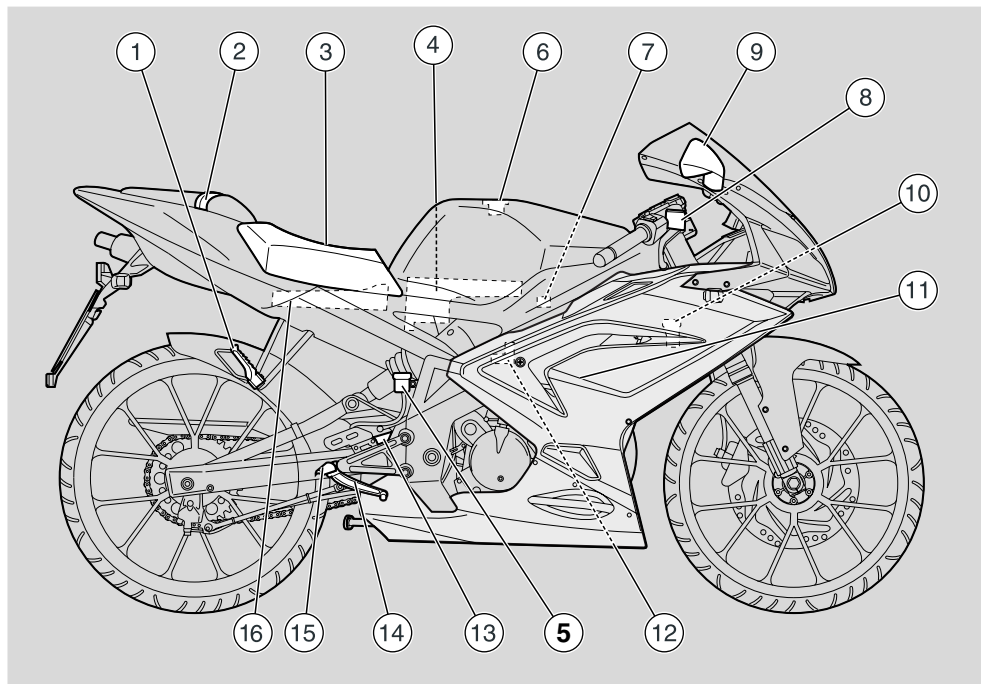
過重になった車両は安定を失い、操縦性も悪くなります。

アクセサリ等を取り付けた場合、走行時の特徴が変化しますので、走行速度に注意して安全運転を心掛けて下さい。



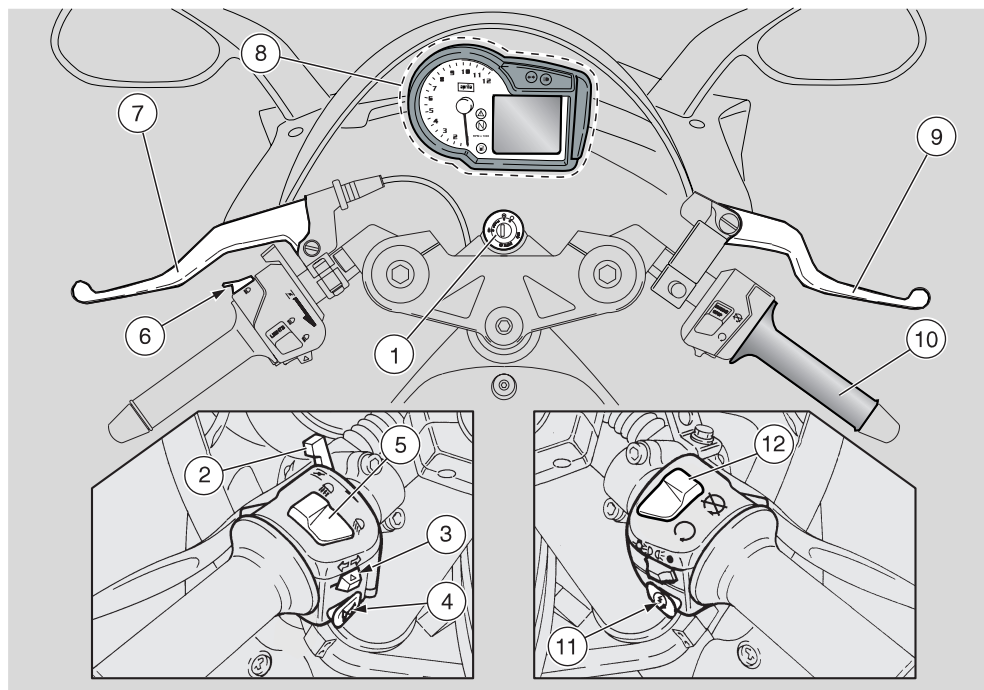
各部名称

- | | | |
|------------------------------|--|--------------------|
| 1) 冷却液タンク | 7) 書類／ツールキット入れトランク | 11) ギアチェンジレバー |
| 2) メーターパネル | 8) 左パッセンジャーフットレスト
(クリック式、オープン/クローズ)
(指定された国のみ) | 12) サイドスタンド (自動収納) |
| 3) 左リアビューミラー | | |
| 4) イグニッションスイッチ/ステアリング
ロック | 9) ドライブチェーン | |
| 5) バッテリー | 10) 左フットペグ
(スプリング式、オープン) | |
| 6) 冷却液エキスパンションタンクプラグ | | |



各部名称

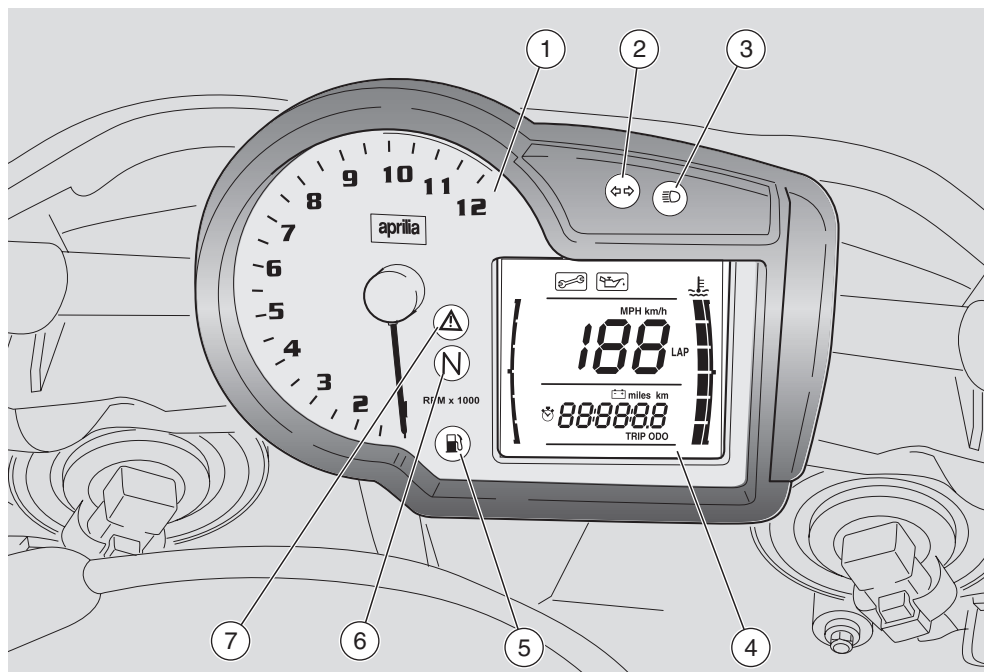
- | | | |
|--|-------------------|--------------------------------|
| 1) 右パッセンジャーフットレスト (ク
リック式、オープン/クローズ) (指定
された国のみ) | 6) 燃料タンクキャップ | 13) リアブレーキポンプ |
| 2) パッセンジャーホールドベルト | 7) ヒューズケース | 14) リアブレーキレバー |
| 3) ライダーシート | 8) フロントブレーキオイルタンク | 15) 右フットペグ (スプリング式、オーブ
ン) |
| 4) エアクリナー | 9) 右リアビューミラー | 16) ミキサーオイルタンク |
| 5) リアブレーキオイルタンク | 10) 警告ホーン | |
| | 11) スパークプラグ | |
| | 12) アイドリング調整ネジ | |



各部名称

- 1) イグニッションスイッチ/ステアリングロック (○ - ※ - ④)
- 2) スターターレバー (冷間時用) (㊦)
- 3) ターンインジケータースイッチ (ㄅ)
- 4) 警告ホーンボタン (㊦)
- 5) ランプスイッチ (㊦ - ㊦)
- 6) MODE ボタン
- 7) クラッチコントロールレバー

- 8) メーターパネル
- 9) フロントブレーキレバー
- 10) スロットルグリップ
- 11) スターターボタン (㊦)
- 12) エンジンストップスイッチ (○ - ※) (指定された国のみ)



各部名称

- 1) タコメーター
- 2) ターンインジケーター表示警告灯 (↻↻) 緑色
- 3) ハイビーム警告灯 (≡○) ブルー
- 4) マルチ機能デジタルディスプレイ (冷却液温度 - 時計 - バッテリーテンション - クロノメーター - ミキサーオイルレベル診断 (🔧))
- 5) 燃料レベル警告灯 (🛢️-) オレンジ
- 6) ニュートラルポジション警告灯 (N) 緑色
- 7) 警告ランプ (⚠️) 赤色

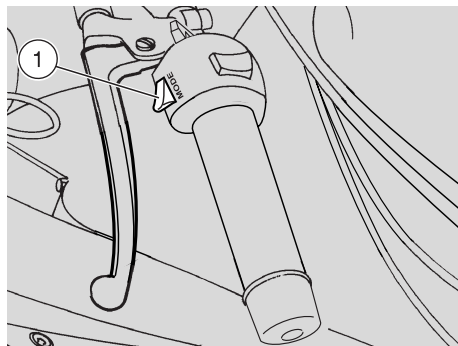
計器およびインジケーター類 (表)

全てのランプはイグニッションスイッチを "○" にするたびに約 2 秒間点灯し、エンジンが作動する前に LED の機能点検を行います。この時点で点灯しないランプがある場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい。

項目		機能
タコメーター (回転 / 分 rpm)		1 分間のエンジン回転数を表示します。  注意 規定以上のエンジンの出力を出さないで下さい、41 ページ (慣らし運転) 参照。
ターンインジケーター表示灯		ターンインジケーターが点いている時に点滅します。
ハイビーム表示警告灯		ヘッドランプのハイビームが使用されているときに点灯します。
燃料レベル警告灯		燃料タンク内のガソリン残量が 2 リットルになった時点で点灯します。 この場合にはすぐに燃料補給をしてください。27 ページ (燃料) 参照。
ニュートラルギア表示灯	N	ギアがニュートラルポジションにある時に点灯します。
エラー警告灯		イグニッションスイッチを "○" にする度に点灯し、エンジンが作動する前にランプ類の機能点検を行います。 ランプが点灯しない場合は、 aprilia 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい。  注意 エンジン始動後もランプが点灯したままの場合、または走行中に点灯した場合は冷却液温度が上昇しすぎている事を示します。 この場合は、点検またはリキッドの充填を行い、必要であれば aprilia 社オフィシャルディーラーに連絡して下さい。

項目		機能
マルチ機能 デジタルディス プレイ	スピードメーター (km/時 - MPH)	瞬間走行速度、平均走行速度、最高走行速度 (Km またはマイル) を表示します、 18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	オドメーター (KM - マイル)	部分的および総走行距離を表示します。
	冷却液温度 (° C/° F) 	エンジン内の冷却液温度を段階に分けて表示します、18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。 温度が危険なゾーンに到達すると (> 105° C)、ディスプレイ上に 6 段階までのランプおよび警告ランプが点灯し、  アイコンが点滅します。 この時点でイグニッションキーを“  ”にし、エンジンが冷めるまで待ち、冷却液レベルを点検します、32 ページ (冷却液) 参照。 aprilia 社オフィシャルディーラーにお問い合わせください。  注意 冷却液温度が許容値 (114 °C - 237 °F) を超えると、エンジンに重大な損傷を与える可能性があります。
	マルチ機能ディスプレイ上ミキサーオイル警告灯 	タンク内の残量が 0.5 リットルになった時点で点灯します。  注意 オイルリザーブアイコンが点灯した場合、ミキサーオイルレベルがリザーブに入った事を示します。直ちにミキサーオイルを補充して下さい、31 ページ (ミキサーオイルタンク) 参照。
	時計	設定された時刻を表示します、18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	バッテリー電圧 	バッテリー電圧値をボルトで表示します、18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。
	クロノメーター 	数回分の測定された時間を表示します、18 ページ (マルチ機能コンピューター) 参照。

表示を変えるには、18 ページ (マルチ機能コンピューター) を参照して下さい。



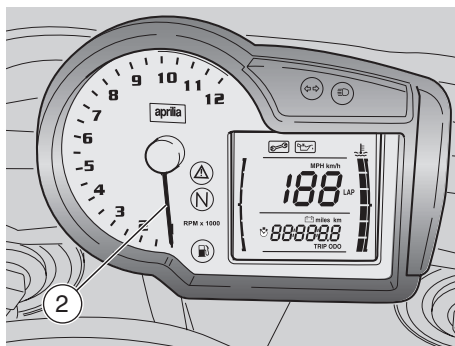
マルチ機能コンピューター

コマンド

1)MODE ボタン:

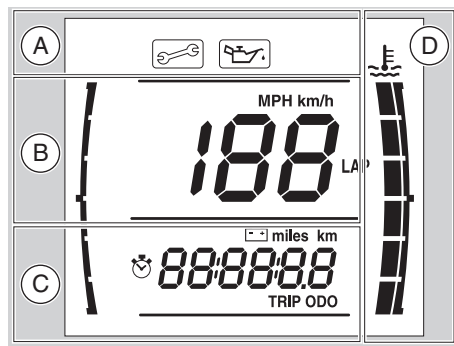
短く押すと機能が切り替わります。

長く押す (3 秒以上) と調整作業を行います。



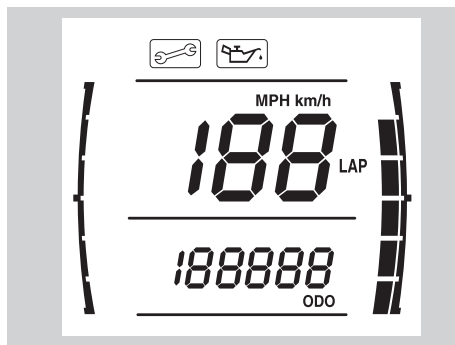
イグニッションキーを“○”の位置に回すとインストルメントパネル上に下記のランプが2秒間点灯します。

- 全てのランプ
 - インストルメントパネルランプ
 - ディスプレイ上の全ての計器
- タコメーター (2) の指針は、振り切れてから元の位置に戻ります。



点検の為に、全ての計器が瞬間的に標準値を表示および点灯します。点灯する計器は次の通りです。

- アラームアイコン (ゾーン A)
 - 瞬間走行速度 (ゾーン B)
 - オドメーター / トリップメーター / 時計 / バッテリー電圧 / クロノメーター (ゾーン C) (*)
 - 冷却液温度 (ゾーン D)
- (*) ディスプレイに表示される機能は最後にキーを抜き取った時点の設定です。



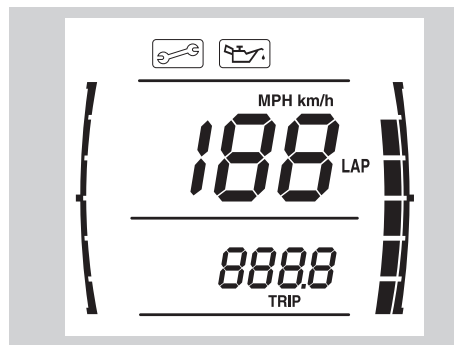
機能

- ◆ MODE ボタンを押していくと、下記の機能がディスプレイのCゾーンに順に表示されます。
- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP)
- 時計
- バッテリー電圧
- LAP TIMER(クロノメーター)

オドメーター (ODO)

総走行距離がディスプレイに表示されます。

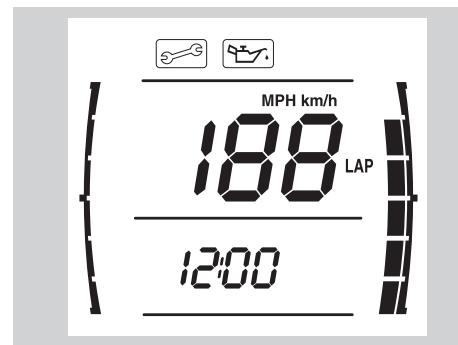
数値をリセットをする事は出来ません。



トリップメーター (TRIP)

ODO 機能が表示されている状態で、MODE ボタンを短く押すと、ディスプレイ上に部分的走行距離が表示されます。

TRIP の数値が表示されている状態で、MODE ボタンを長く押すと、数値がリセットされます。



時計

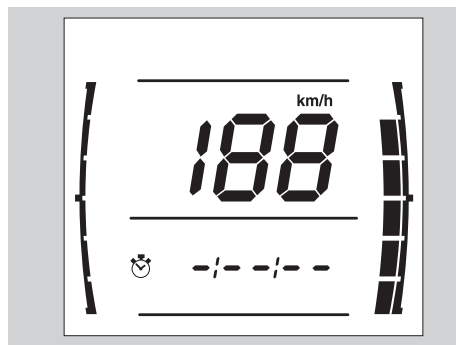
TRIP 機能が表示されている状態で、MODE ボタンを短く押すと、ディスプレイ上に時計が表示されます。

時刻のセッティング

停車した状態で時計を表示し、MODE ボタンを長く押し続けると、時刻調整モードになります。ディスプレイには時間を示す数字が表示されます。MODE ボタンを押すたびに数が増し、12 の後には 1 に戻ります。

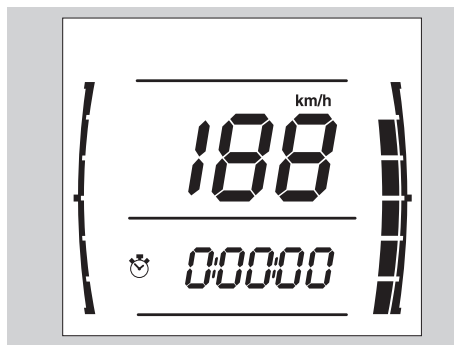
MODE ボタンを長く押す事により時間を決定し、分設定に移ります。その際、ディスプレイには分数のみが表示されます。MODE ボタンを押すごとに数が増し、59 の後には 0 に戻ります。

3 秒間ボタンを押さないとセッティングが終了し、設定された時刻がディスプレイに表示されます。



クロノメーター

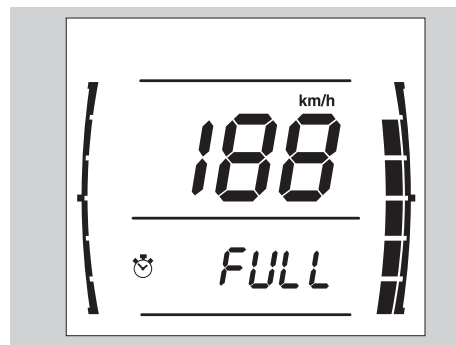
時計機能が表示されている状態で、MODE ボタンを短く押すと、ディスプレイ上にクロノメーターが表示されます。MODE ボタンを長く押すと、走行中にはタイム測定モードになり、停車時には測定したタイムを表示します。



タイムの測定

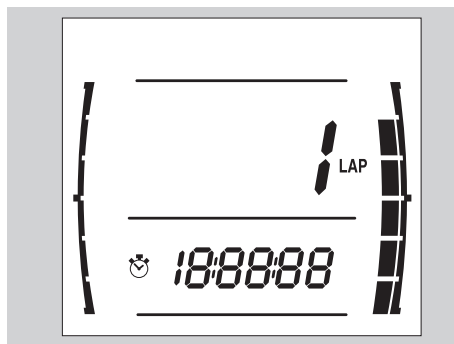
クロノメーターは、走行中に MODE ボタンを短く押す事によってスタートします。一度目にボタンを押した時点でクロノメーターがスタートします。10 秒以内にボタンを押すと、その時点でリセットされ、また 0 からスタートします。その後、10 秒を過ぎてからボタンを押すと、そのタイムが記録され、その時点から次の測定がスタートします。その際、記録されたタイムが 10 秒間表示され、その後ディスプレイは測定中のタイム表示に戻ります。

MODE ボタンを長く押す事により測定がストップし、ディスプレイには最後に測定した数値が表示され、前に記載されている元の機能表示に戻ります。



19 回分の測定値が記録された時点で、ディスプレイ上に FULL と表示され、新しい数値を記録する事が出来ません。

バッテリーを外すと、記録されているタイムは抹消されます。



測定タイムの表示

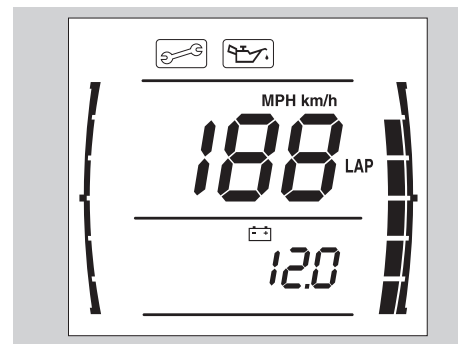
停車状態でクロノメーター機能にすると、測定したタイムを表示する事が出来ます。

ディスプレイ中央部の走行速度を表示する部位に、LAP 数が表示され、その下部にタイムが表示されます。

車両を始動させるか、MODE ボタンを長く押す事により、クロノメーター表示機能から出る事ができます。

タイムの削除

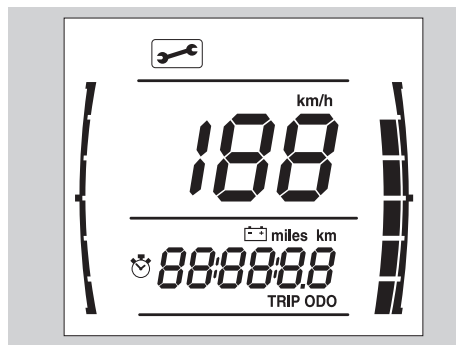
ODO 機能が表示されている状態で MODE ボタンを長く押すと、記録されている全てのタイムが削除されます。



バッテリー電圧

時計機能が表示されている状態で、MODE ボタンを短く押すと、ディスプレイ上にバッテリーアイコンと充電状態が表示されます。

システムが電圧に異常を感知すると (10~16 ボルト以外)、ディスプレイ上に“”アイコンが点滅します。



定期点検時期警告灯

定期点検を必要とする走行距離が近づくと、ディスプレイ上に5秒間レンチの形をしたアイコンが点滅します。

規定の距離に到達すると、アイコンは点灯したままになります。

初回：1000 km (625 mi) 走行後

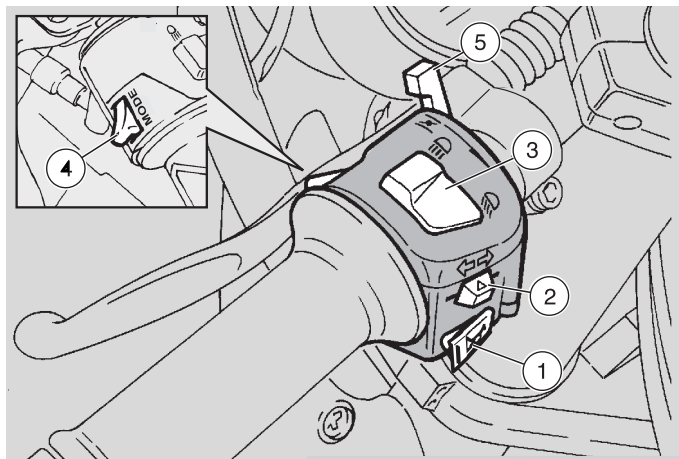
以降は 5000 km (3106.8 mi) 走行ごと

プログラムされたメンテナンスを **aprilia** オフィシャルディーラーおよびサービスセンターに依頼して行った後、この表示は消去します。

表示単位の選択 (KM またはマイル)

バッテリーが取り付けられた状態で、キーを“○”の位置にし、MODE ボタンを10秒以上押し続けると、オドメーターおよびタコメーターの表示がKM またはマイルに変わります。

ボタンを押した最初の5秒間はインストールメントパネルに何も表示されませんが、その後現在設定されている単位が点滅表示されます。MODE ボタンを10秒以内に放すと、現在設定されている単位が使用されます。



重要： インジケーター、ライト等の電装パーツはイグニッションキーが“○”の位置にないと機能しません。

ランプ類はエンジンが作動しているときに機能します。

左側ハンドルグリップ

- 1) **警告ホーンボタン (📢)**
押すと警告ホーンが鳴ります。
 - 2) **ターンインジケータースイッチ (👉👈)**
左に出すにはスイッチを左にずらし、右に出すにはスイッチを右にずらします。ターンインジケーターを停止するにはこのスイッチを押します。
 - 3) **ランプスイッチ (D - D)**
“D” ポジションの時、パーキングランプ、インストルメントパネルランプ、ロービームは常に点灯しています。
“D” ポジションの時は、ハイビームが点灯しています。
- 重要：** ライトの消灯はエンジンを切ると共に起こります。
- 4) **MODE ボタン**
マルチ機能コンピューターのデータを表示、または変更します。
 - 5) **スターターレバー (エンジン冷間時) (📉)**
レバー“📉”を下に回し、冷間時のエンジンスターター機能に入ります。
スターターをストップさせるには、レバー“📉”を元の位置に戻します。

右側ハンドルグリップ

- 1) エンジnstopスイッチ (○-⊗)
(指定された国のみ)

⚠ 注意

走行中には絶対にこのエンジnstopスイッチ “○-⊗” を操作しないでください。

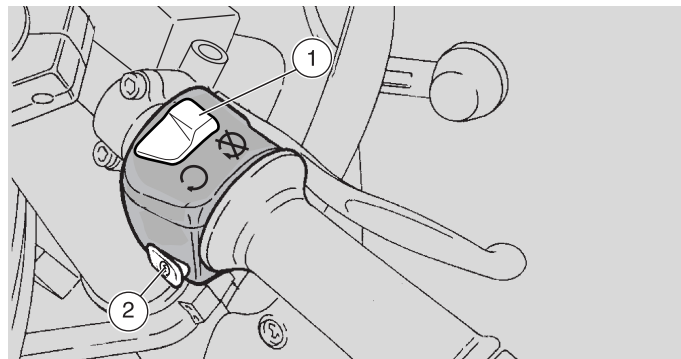
このスイッチは安全のため、または緊急時に使用します。
スイッチを“○”位置で長く押すと、エンジnstartする事が出来ます。“⊗”位置で押すと、エンジnstopsします。

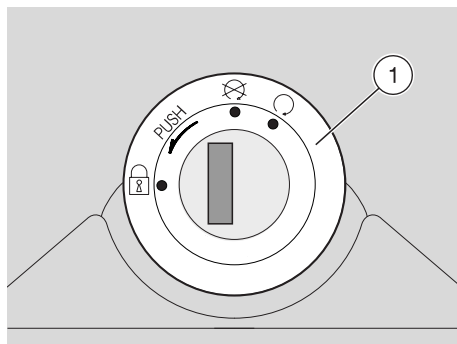
⚠ 注意

エンジnstopped状態でイグニッションスイッチが“○”の位置にあるとバッテリーが放電する恐れがあります。
車両を停止し、エンジnstopped後、スイッチを“⊗”の位置にしてください。

- 2) スターターボタン (Ⓢ)

“Ⓢ” ボタンを押すと、スターターモーターがエンジnstartを回転させます。始動の手順は 36 ページ (エンジnstartの始動) を参照して下さい。

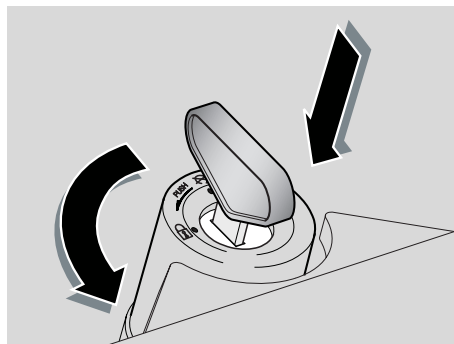




イグニッションスイッチ

イグニッションスイッチ (1) は両ハンドルバーの中央部に位置しています。

重要： キーはイグニッション/ステアリングロックスイッチ、フューエルタンクフィルタープラグロック、シートロックをON にします納車時には合計 2 本のキーが装備されています。(1 本はスペア)



ステアリングロック

⚠ 危険

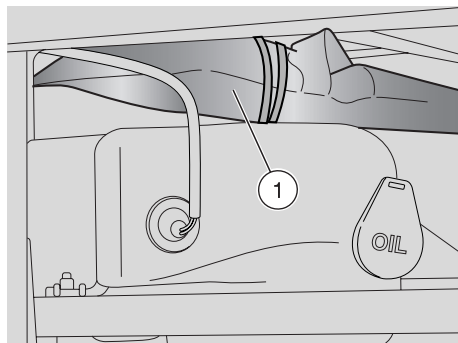
走行中に絶対キーを“”位置にしないで下さい。車両のコントロールを失う危険があります。

機能

ステアリングロックは次の手順で行なってください：

- ◆ ハンドルを左側(または右側)いっぱいにつけておきます。
- ◆ キーを“”位置に回します。
- ◆ キーを押しながら“”位置まで回します。
- ◆ キーを引き抜きます。

位置	機能	キーの抜き取り
 ステアリング ロック	ステアリングがロックされています。エンジン作動および、ライトをつけることは出来ません。	キー抜き取り可能。
	エンジン作動および、ライトをつけることは出来ません。	キー抜き取り可能。
	エンジン作動および、ライトをつけることが可能です。	キー抜き取り不可。



書類／ツールキット入れトランク

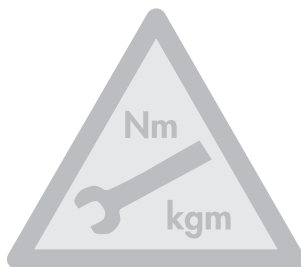
書類 / ツールキット入れトランクはライダーシート下部にあり、開けるには：

- ◆ライダーシートを取り外します、52 ページ (ライダーシートの取り外し) 参照。

ツールキット (1) の内容は以下のとおりです：

- 六角レンチ 3 mm、4 mm、5 mm
- ダブルフォークレンチ 10-11 mm
- スパークプラグ用ボックスレンチ 21-22 mm
- アレンレンチ 3 mm
- スパークプラグ用ボックスレンチ
- プラスドライバー
- マイナス / プラスドライバー
- ボックスレンチ用湾曲ピン
- 収納用ケース

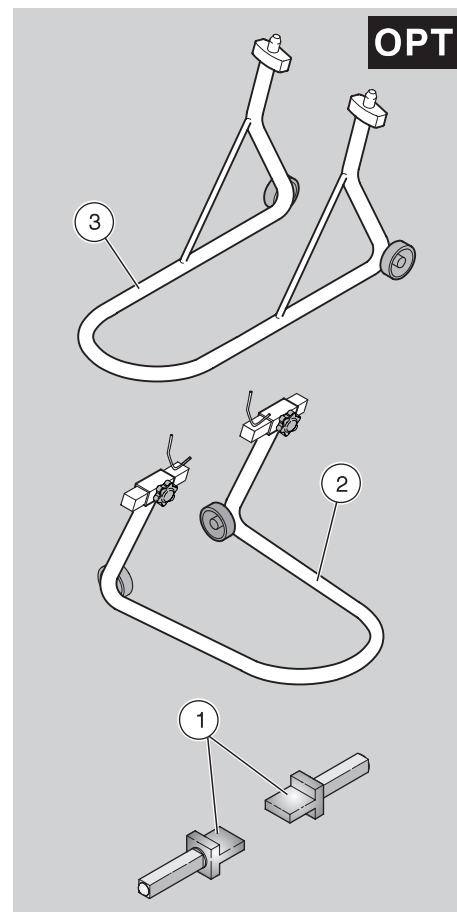
最大載積重量： 1,5 kg



専用ツール OPT

下記の作業については、専用ツールを使用してください (**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい)

ツール	作業	ページ
リアサポートスタンド用サポートピン (1)	リアスタンドを使用するの車両の配置	43
リアサポートスタンド (2)	リアホイールの取り外し。 チェーン張力の調整。	48 50
フロントサポートスタンド (3)	フロントホイールの取り外し。	46



主要部品

燃料

⚠ 危険

エンジン内で燃焼される燃料は、非常に燃えやすく、危険な状況下では爆発の恐れもあります。燃料補給やメンテナンスは換気のよい場所でエンジンを止めた状態で行ってください。火災や爆発を避けるため、補給の間など燃料の蒸気の近くで喫煙したり、炎、火花、その他、あらゆる高熱物を燃料に近づけたりしないで下さい。

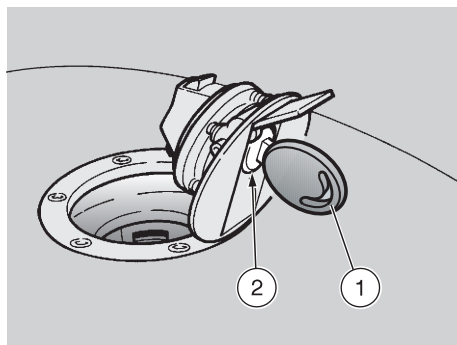
また、給油の際には注入口から燃料をこぼさないように注意してください。こぼれた燃料が熱いエンジン外壁に触れると引火する危険があります。

万一燃料が少しでもこぼれた場合には、エンジンを始動させる前にその部分を完全に乾かしてください。

燃料は暑さや太陽熱で膨張します。

決してタンクから溢れそうなほど一杯には入れないでください。

補給後は、キャップをしっかりと閉めてください。ホースを使用して、燃料を他の容器に移すときなども、口に含んだり、肌に触れたり、蒸気を吸ったりすることを避けてください。



環境汚染を防ぐために、燃料を所定の場所以外に放置しないで下さい。

子供の手の届かない場所に保管してください。

燃料は DIN 51 607 に基づいた最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85 (N.O.M.M.) の無鉛ガソリンのみ使用してください。

燃料タンク容量

(リザーブを含む): 13 リットル

リザーブ: 2 リットル (メカニカルリザーブ)

燃料補給は次の手順で行なってください:

- ◆ キー(1)をフィラーキャップ(2)ロックに挿し込みます。
- ◆ キーを時計回りに回してから引き、キャップを開きます。

ギアボックスオイル

ギアオイルを定期管理表、44 ページおよび 49 ページ (ギアオイルレベルの点検および補充) を参照して点検します。

ギアオイルを定期管理表、44 ページおよび 50 ページ (ギアボックスオイルの交換) を参照して交換します。

重要: 高品質のオイルを正しい濃度で使用してください、71 ページ (指定油脂類表) 参照。

⚠ 注意

オイルに毎日触れたり、長い間使用したりすると、肌に危害をきたす恐れがあります。

使用後は、必ず手をよく洗って下さい。

環境汚染を防ぐために、オイルを定められた場所以外に放置しないで下さい。交換した尾オイルは密閉容器に保管し、購入元もしくは回収業者に引き取ってもらう事をお勧めします。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお勧めします。



ブレーキオイル - 注意事項

重要： この車両は水圧式のフロントおよびリア別々のブレーキディスクを装備しています。

下記の説明は一つのブレーキシステムについてですが、内容はフロント、リア共に共通です。

⚠ 危険

ブレーキレバーの突然の抵抗やクリアランスは、水圧回路システムに問題があります。

ブレーキシステムに問題があるときや通常のコントロールができない場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡して下さい。

⚠ 危険

特にメンテナンスまたは点検後、ブレーキディスクが油などで汚れていないかを確認して点検してください。
また、ブレーキケーブルが振じれたり、損傷がないか点検してください。
油圧システムに水や埃が混入しないように注意してください。

油圧システムのメンテナンスをする際はゴム手袋の着用をお勧めします。

ブレーキ液が皮膚に付いたり、目に入ったりすると激しい炎症を起こすことがあります。

その場合は、液体と接触した部分をよく洗い、目に入ってしまった場合には直ちに眼科医または医師に連絡して下さい。

環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を放置しないでください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意

ブレーキ液を使用する際、プラスチックおよび塗装部分を損傷しますので、ご注意ください。

ディスクブレーキ

⚠ 危険

ブレーキは、安全を守る主機能です。常に完全なコンディションで管理し、出発の前にチェックを怠らないようにして下さい。

ブレーキ液は一年に一度 **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼して交換しなければなりません。

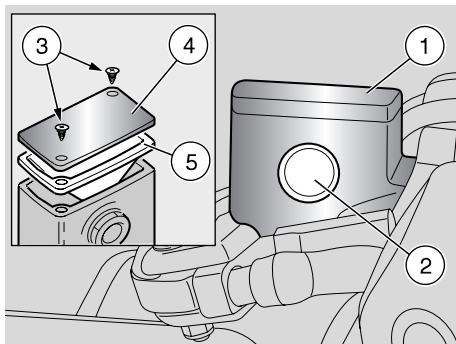
指定油脂類表で指定されているていぶの液体を使用してください、71 ページ (指定油脂類表) 参照。

この車両は水圧式のフロントおよびリアディスクブレーキを装備しています。
ブレーキパッドが摩耗すると、摩耗した分を補うためにブレーキ液が減ります。

フロントブレーキ液タンクは右ハンドルバーのフロントブレーキレバー接続部にあります。

リアブレーキ液タンクは上部フェアリング下、車両右側にあります。

タンク内のブレーキ液レベル、29 ページ (フロントブレーキ)、30 ページ (リアブレーキ) 参照、パッドの磨耗状態、55 ページ (パッドの磨耗点検) を定期的に点検します。



フロントブレーキ

ブレーキオイルの点検

重要： 車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ ハンドルを左に回し、ブレーキ液タンク内の液体がリザーバー (1) の縁に平行になるようにします。
- ◆ 液面がレンズ (2) より上であることを確認します。
- ◆ もし、液面がレンズ (2) より完全に上にならない場合は補充します。

補給

⚠ 注意

ブレーキ液がタンクから溢れ出す危険があります。ネジ (3) がゆるんだ状態、またはブレーキ液タンクカバーが取り外されている状態で、ブレーキレバーを絶対に引かないで下さい。

- ◆ 2本のネジ (3) を取り外します。
- ◆ カバー (4) を外します。

重要： オイルがこぼれないよう、補充中はオイル液面とタンクの縁が平行になる位置を保つようにしてください。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないように注意してください。ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

- ◆ オイルシール (5) を取り外します。

⚠ 注意

補充する際、液体レベルは“MIN”を超えなければなりません。

“MIN”レベル以上に充填するのはブレーキパッドが新品の場合のみにしてください。

ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。

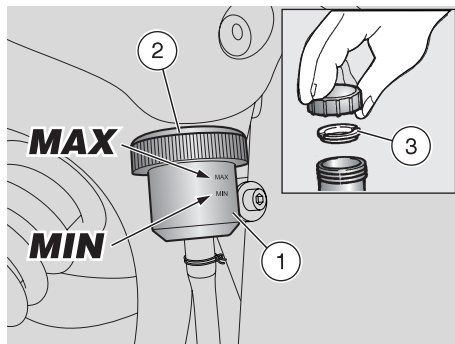
ブレーキパッドを交換する際に、液体がこぼれる心配をなくするため、古いパッドのままの時には“MIN”以上に補充しないで下さい。

重要： ブレーキ液タンクの縁が地面と平行な状態で、レンズ (2) が完全に隠れるまで補充すると MAX レベルです。

- ◆ ブレーキ液でタンクのレンズが完全に隠れるまで補充します、71 ページ (指定油脂類表) 参照。
- ◆ オイルシール (5) を元の位置に正しく配置します。
- ◆ カバー (4) を取り付けます。
- ◆ 2本のねじ (3) を締め付けます。

ブレーキの効き具合を点検してください。必要な場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

ブレーキレバーの作動範囲が大きかったり、制御力が落ちたり、回路内にエアがある場合などは、エア抜き作業が必要な場合がありますので、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい。



リアブレーキ

ブレーキオイルの点検

車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
停車の状態から発進の状態に持つために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

- ◆ 車両を垂直に配置し、タンク (1) 内の液面がキャップ (2) と平行になるようにします。
- ◆ タンク内のオイル液面が "MIN" マークより上にあることを確認します。
- ◆ 液面が "MIN" マークに達していない場合は補充してください。

補給

⚠ 注意

ブレーキ液がタンクから溢れ出す危険があります。タンクキャップを緩んだり外したりした状態では、決してリアブレーキレバーを操作しないでください。

- ◆ キャップ (2) を回して取り外します。

⚠ 危険

ブレーキオイルを長時間空気に触れさせないように注意してください。
ブレーキオイルには吸湿性があり、空気に触れると湿気を含んでしまいます。
補充のため必要な場合にのみ、タンクキャップを開けるようにしてください。

重要： オイルをこぼさないよう、補充中はオイル液面とタンクの縁が平行 (水平位置) を保つようにしてください。

- ◆ オイルシール (3) を取り外します。
- ◆ スポイトを使用して、タンク (1) にブレーキ液を、71 ページ (指定油脂類表) 参照、"MIN" ~ "MAX" 間まで補充します。

⚠ 注意

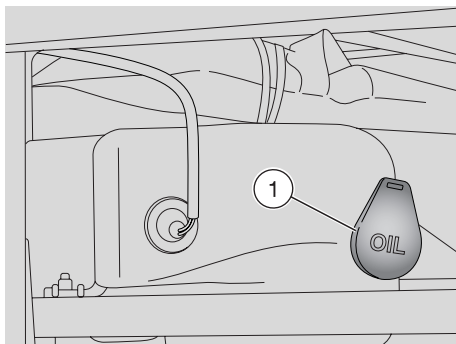
"MAX" レベルまで充填するのはブレーキパッドが新品の場合のみにしてください。ブレーキオイル液面はブレーキパッドの摩耗につれて徐々に下がってきます。ブレーキパッドを交換する際に、液体がこぼれる心配をなくするため、古いパッドのままの時には "MAX" ままでに補充しないで下さい。

- ◆ 部品の取り付けは取り外し作業の逆の手順で行って下さい。

⚠ 危険

ブレーキの効き具合を点検してください。
必要場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

ブレーキレバーの作動範囲が大きかったり、制御力が落ちたり、回路内にエアがある場合などは、エア抜き作業が必要な場合がありますので、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい。



ミキサーオイルタンク

ミキサーオイルタンクを定期管理表、44ページに従い補充します。

この車両には、オイルとガソリンをミックスする為の個別のミキサーが装備されています。エンジンを潤滑するには、71ページ(指定油脂類表)を参照します。ミキサーオイルがリザーブに入ると“”警告灯および警告ランプがインストルメントパネル上に点灯します、15ページ(メーターパネル)参照。

⚠ 注意

ミキサーオイルを使用しないでの走行はエンジンに重度の損傷を与えます。

ミキサーオイルが無くなった場合やミキサーオイルパイプが外れてしまった場合には **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡して下さい。

ミキサーオイルシステムに入った空気によってエンジンが重度の損傷を受けるため、この作業は必然です。

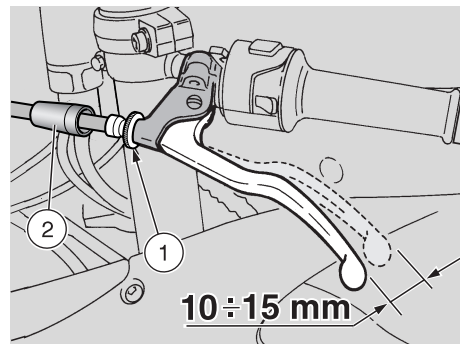
ミキサーオイルを補充するには：

- ◆ ライダーシートを取り外します、52 ページ(ライダーシートの取り外し)参照。
- ◆ キャップ (1) を外します。
タンク容量：1.5 リットル
リザーブ：0,5 リットル

⚠ 注意

使用後は、必ず手をよく洗って下さい。環境汚染を防ぐために、オイルを定められた場所以外に放置しないで下さい。

子供の手の届かない場所に保管して下さい。

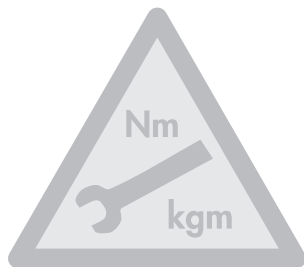


クラッチの調整

エンジンが止まってしまう、クラッチが入れてギアが入っている状態で前に進む、またはエンジン回転数に対して加速が遅くクラッチがずべる場合にクラッチの調整を行います。

大きな調整でなければ、アジャスター (1) で調整する事ができます。

- ◆ 保護ラバー (2) をずらします。
- ◆ クラッチレバー端部の遊びが 10~15mm になる (図参照) までアジャスター(1) を回します (1)。
- ◆ クラッチレバー端部の遊びを点検します。
- ◆ 保護ラバー (2) を元どおりかぶせます。



⚠ 危険

適切な調整が行えない場合、またはクラッチ機能に異常がある場合には **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡して下さい。

重要： クラッチケーブルの状態を点検します。潰されていたり、磨耗していないかを点検します。

◆ 早期磨耗などを避けるため、クラッチケーブルを定期的に潤滑します、71 ページ (指定油脂類表) 参照。

冷却液

⚠ 注意

冷却液が規定最低レベル以下の場合には車両を使用しないで下さい。

冷却液レベルを点検し、定期管理表、44 ページを参照して交換します。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。

また、皮膚に付いたり目に入ったりすると炎症の原因になります。

冷却液が皮膚に付いたり、眼に入ったりした時は、流水で十分に洗い落とし医師の診察を受けてください。誤って飲み込んだ場合には吐き出してから喉、口を水で十分に洗浄し、直ちに医師の診察を受けてください。

環境汚染を防ぐために、所定の場所以外に液を放置しないでください。

子供の手の届かない場所に保管してください。

熱くなっているエンジンに冷却液をこぼさないよう注意してください。目にみえない炎を発生し火災の原因になります。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお勧めします。

交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。

冷却液は水 50%と不凍液 50%で作られています。

この混合率の冷却液は通常の使用温度範囲において最適であり、また防錆効果も良好です。

この混合率の冷却液は蒸発による減少が小さく、したがって補充回数も少なくてすみますので、夏季も含めて一年中この混合率を維持するようお勧めします。

また、蒸発によってラジエーターの中に残るミネラル結晶の発生も少なくなるため、冷却系統の性能を効率良く維持することができます。

外気温が 0℃ 以下になる場合は頻繁に冷却系統の点検を行なってください。必要ならば不凍液の混合率を (最大 60% まで) 上げてもかまいません。

エンジンに損傷を与えないよう、冷却液の水は蒸留水のみ使用してください。

⚠ 危険

高温時には冷却液に圧力が掛かっていますので、エンジン暖機時はキャップ (1) を外さないで下さい。

点検と補充

⚠ 危険

冷却液の点検や補充はエンジンが冷えている時に行ってください。

- ◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。

重要： 車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。

停車の状態から発進の状態に持つために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

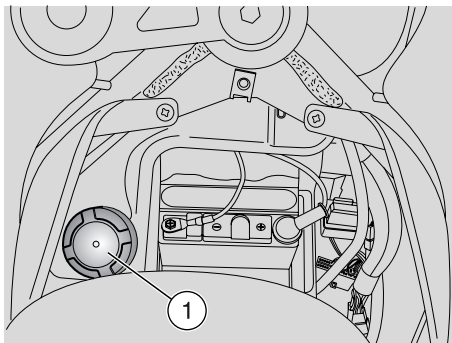
- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
- ◆ ライダーシートを取り外します、52 ページ (ライダーシートの取り外し) 参照。
- ◆ 燃料タンクを移動させます、54 ページ (燃料タンクの移動) 参照。
- ◆ キャップ (1) を取らないで、まず緩める (時計と反対方向に 2 回転)。
- ◆ 中の圧力が抜けるまで数秒待ちます。
- ◆ キャップ (1) を回して取り外します。

⚠ 危険

冷却液は有毒ですので決して飲み込まないでください。

また、皮膚に付いたり目に入ったりすると炎症の原因になります。

冷却液があるかを調べる為に、指や物を挿入しないで下さい。



そうでない場合は：

- ◆ 燃料タンクの直径が小さくなるレベルまで冷却液を補充します、71 ページ (指定油脂類表) 参照。ただしこのマークを超えないよう注意してください。エンジン作動中に冷却液がタンクから溢れ出す危険があります。
- ◆ キャップ (1) を取り付けます。

⚠ 注意

冷却液の減りかたが激しかったり、エキスパンションタンクが空になったりする場合は、冷却液の回路に液漏れがないか点検してください。

修理は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼してください。

タイヤ

この車両は、チューブレスタイプのタイヤを装備しています。

⚠ 危険

定期的に室温でタイヤの空気圧を調べます。68 ページ (テクニカルデータ) 参照。

タイヤが熱い時には正確な測定はできません。

長距離走行前と後には必ずチェックを行ってください。

空気圧が高すぎると、通路の起伏に対処できずハンドルを取られたり、クッションが悪くなったりし、カーブでの路面保持性もなくなります。

また逆に空気圧が低すぎると、タイヤの側面に負荷がかかり、リムから外れたり、浮き上がったりして車両のコントロールを失う危険があります。

特に急ブレーキの際にはリムから外れる危険もあります。

さらに、カーブでは車体の横滑りを起こしやすくなります。

タイヤの状態が悪いと路面グリップ力や操縦性を損ないますので、タイヤの接地面や側面の状態、および摩耗を常に点検してください。

全体が磨耗していたり、トレッドに5mm以上の亀裂があるような場合はタイヤの交換を依頼してください。

タイヤの修理を受けた後は必ずホイールバランスの点検を受けて下さい。

当社指定サイズのタイヤを使用してください。68ページ(テクニカルデータ)参照。

タイヤの空気が急に抜けたりすることを防ぐために、エア注入バルブに、キャップがついているかチェックしてください。交換作業、修復、維持管理、バランスを取る作業は、とても重要です。これらのメンテナンスを確実に行うには、十分な装備、知識、経験が必要とされますので、**aprilia**社オフィシャルディーラーまたは、資格および経験を持つタイヤ交換所で行って下さい。新しいタイヤには、滑りやすいフィルムでカバーされている可能性がありますので最初の数キロ間は注意して走行してください。タイヤ表面に不適当な液体やオイルなどを塗らないでください。

タイヤは古くなると硬化し、たとえ摩耗していなくても路面のグリップ力が落ちます。

このような時には新品と交換してください。

タイヤ磨耗限度トレッドの深さ

フロント: 2 mm

リア: 2 mm

触媒サイレンサー

危険

このバージョンのサイレンサーを搭載した車両を枯葉などが多い場所、子供が多い場所などに駐車しないで下さい。使用後すぐのマフラーはとても高温になりますので、冷めるまでの間の保管に最大の注意を払って下さい。

注意

触媒システムに損傷を与えないよう、無鉛ガソリンのみ使用してください。

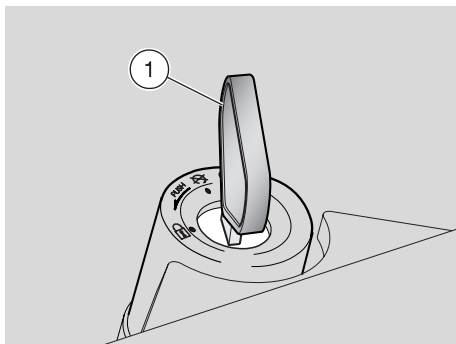
⚠ 危険

走行を始める前には必ず予備点検を行い、車両は確実に機能する事を確認して下さい、(“走行前の点検”参照)。
事前チェックを怠ると、本人以外にも他人および車両への損傷をきたす可能性があります。

各機能コントロール方法が明瞭でなかったり、疑問があったり、エラー部品を見つけたりした場合には、**aprilia** 社オフィシャルディーラーにご連絡下さい。
走行前の点検はライダーの安全のためにとても重要です。短い時間でできますので必ず実施してください。

走行前の点検

特徴	ブレーキオイルの点検	ページ
フロント・リアディスク ブレーキ	正常に機能するか、レバーのアイドリング、ブレーキオイル漏れの有無などを調べます。 ブレーキパッドの摩耗を点検します。 必要であれば、ブレーキ液を補充します。	28、29、30
スロットル	全てのステアリングポジションでスロットルがスムーズに働くこと、開閉が完全にできるかを点検します。必要場合は、調節を行なうか、潤滑します。	57
ミキサーオイル/ ギアオイル	点検後、必要であれば補給します。	27、31、49
ホイール・タイヤ	タイヤの表面の状態、空気の圧力、着用状態、傷があるかなどをチェックします。	33
ブレーキレバー	スムーズに動かすか点検します。必要ならばジョイント部の潤滑や作動ストロークを調整します。	31
ステアリング	左右の回転が均一で、スムーズに回転し、遊びや緩みがないことを点検します。	—
クラッチ	クラッチコントロールレバー端部の遊びが 10 ～ 15 mm であるかを点検します。クラッチは引っかかりたり、滑ったりしてはいけません。	31
サイドスタンド	スムーズに動き、スプリングが常に正常な位置にスタンドを戻すかを確認します。 必要場合はジョイント部を潤滑します。	42、61
固定部品	固定された部分が緩んでいないか点検します。必要場合は調整し、締め直します。	—
ドライブチェーン	遊びを点検します。	51、52
燃料タンク	レベルを調べ、必要場合は、補給を行なう。 つまりや漏れがないか調べます。	66
ライト、各警告表示、警 笛、各電気システム	ライト、警笛、各システムが正常に働くことを調べます。必要場合はバルブの交換や故障部分を修理します。	62、63、64



エンジンの始動

⚠ 危険

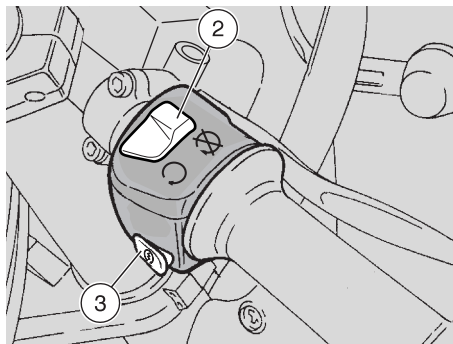
排気中には吸引すると大変危険な一酸化炭素が含まれています。閉め切った室内や換気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

上記の警告を無視すると、意識の喪失、および窒息死にまで至る可能性があります。

⚠ 危険

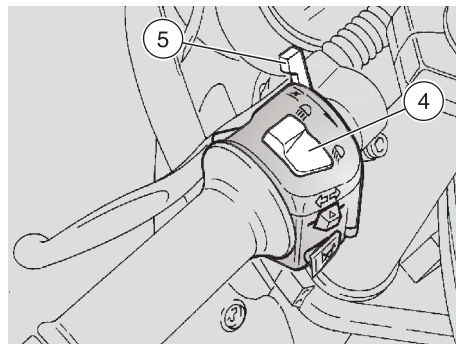
転落や転倒の危険があります。停車の状態から発進の状態に持つていくために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

◆ 車両を運転する際の正常な位置にまたがります。



- ◆ キー (1) をイグニッションスイッチの“○”の位置まで回します。
- ◆ フロントまたはリア、少なくともどちらかのブレーキをかけます。
- ◆ ギアチェンジレバーをニュートラルに入れます (緑のランプ “N” 点灯)。
- ◆ エンジンストップスイッチ (2) を“○”の位置にします。
- ◆ ディマースイッチ (4) が“ ”の位置にあるか確認します。
- ◆ エンジンスターターボタン“③” (3) を数秒間押します。
- ◆ エンジン冷間時でも始動した場合には、冷間時の始動用レバー (5) を下に向けて回します。

重要： バッテリーの消耗を防ぐ為、スターターボタン“③”を 15 秒以上押し続けしないで下さい。この間にエンジンが始動しない場合は、10 秒間待ってから再度スターターボタン“③”を押します。



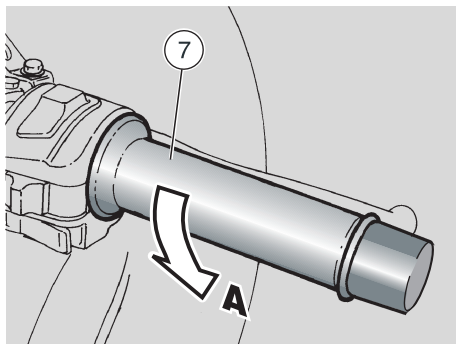
- ◆ エンジンスターターボタン“③” (3) を加速せずに押し、エンジンが始動したら放します。

⚠ 注意

ミキサーオイルリザーブランプ“ ”が点灯した場合、ミキサーオイルはリザーブに入った事を示します。直ちにミキサーオイルを補充して下さい、31 ページ (ミキサーオイルタンク) 参照。

⚠ 注意

スターターモーターを損傷する恐れがあるので、エンジン作動中にエンジンスターターボタン“③” (3) を押さないで下さい。



- ◆ 発進するまで、少なくとも片方のブレーキレバーを引き、加速しないでください。

⚠ 注意

エンジンが温まらない間に急激な発進をしないでください。
汚染物質の排出や無駄な燃料の消費を防ぐために、数キロ間は、速度を落として、エンジンを温めることに心がけてください。

エンジンが暖まったら：

- ◆ 冷間時の始動用レバー“Ⅱ” (5) を上に向けて回します。

エンジンが詰まった状態での始動

上記の手続き通りに始動をしなかった場合や、キャブレターおよび燃料吸入システムにガソリンが回りすぎている場合、エンジンが詰まる場合があります。

詰まったエンジンを清掃するには：

スロットルグリップ (7) を完全に回した状態で数秒間スターターボタン“③” (3) を押します、(ポジション A)。

エンジン冷却時の始動

気温が低い(0℃前後) 場合にはエンジン始動が困難な場合があります。

その場合は：

- ◆ 冷間時の始動用レバー (5) を下に向けて回します。
- ◆ スターターボタン“③” (3) を最低 10 秒間押し続け、同時にスロットルグリップ (7) をゆっくり回します。

エンジンが始動した場合は、

- ◆ スロットルグリップ (7) を放します。
- ◆ 冷間時の始動用レバー“Ⅱ” (5) を上に向けてまわします。
アイドリングが一定でない場合は、アクセルグリップ (7) を数回少しだけ回し様子を見ます。

エンジンが始動しない場合は。

数秒待ってから、もう一度エンジン始動の手順を繰り返します。

長期間停止後の始動

車両を長期間使用していなかった場合には燃料回路が空になっている可能性がありますので、スターターモーターを約 10 秒間回します。
始動する際、ゆっくりとスロットルを回し、始動作業を行って下さい。

発進と走行

⚠ 危険

ハンドルの回転やインストルメントパネルの視界の邪魔になりますので、フェアリング内部（ハンドルとインストルメントパネルの間）に物を置かないで下さい。

重要： 発進の前に、「安全運転のために」の章をよく読んでください、5 ページ（安全運転のために）参照。

⚠ 危険

パッセンジャーを乗せての運転は許可されている国でのみ可能です。

パッセンジャーがいない場合は、パッセンジャー用フットレストが閉じていることを確認してください。
また運転中は常に両手でハンドルをしっかり握り、両足はフットレストに乗せておいてください。

決して変則的な姿勢で運転しないでください。

パッセンジャーが乗る場合には、運転中にライダーのハンドル操作を妨げないように注意を促してください。

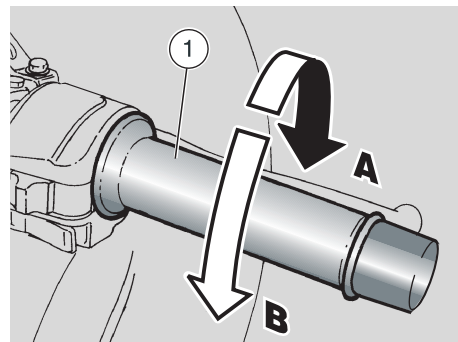
発進の方法：

- ◆ リアビューミラーの向きを正しく調整します。

⚠ 危険

停止した状態でリアビューミラーの使用法に慣れてください。ミラーの表面は凸面になっているため、対象物までの距離が実際よりも遠く見えます。" 広角視界 " のこのミラーに慣れてないと、後方の車両との車間距離を測るのが難しくなります。

- ◆ 最初の数キロ間は低速で走行しエンジンを温めるようにしてください。

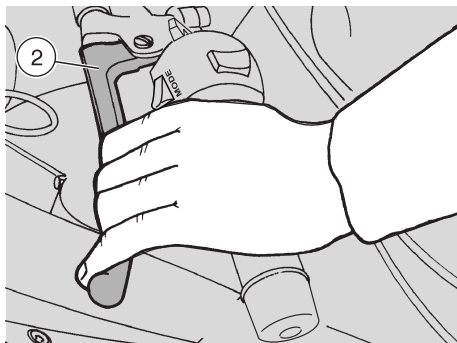


- ◆ スロットルグリップ(1)を放し(ポジション A)、エンジンをアイドルリングに保ち、クラッチレバー(2)を完全に入れます。
- ◆ ギアチェンジレバー(3)を下に踏み込んでギアを1速に入れます。
- ◆ エンジンが始動したら、ブレーキレバーを放します。

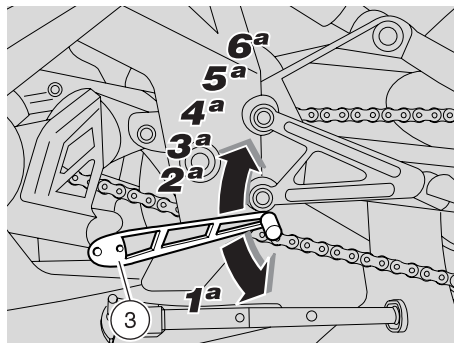
⚠ 危険

クラッチレバーを急激に放すと、エンジンが止まってしまうことがあります。

クラッチレバーを放す際、急激な加速をしないで下さい。クラッチが滑ったり、前輪が持ち上がったたりする危険性があります。



- ◆ クラッチレバー (2) をゆっくり放し、同時にスロットルグリップ (1) をゆっくり回します (ポジション B)。
車両は前進し始めます。
- ◆ 段階を踏んでスロットルグリップ (1) を回し、速度を上げてゆきます (ポジション B)、41 ページ (慣らし運転) 参照。



2 速に入れるには：

⚠ 注意

ギアチェンジは速やかに行なってください。
低すぎる回転数で走行しないでください。

- ◆ スロットルグリップ (1) を放し (ポジション A)、クラッチレバー (2) を入れ、ギアチェンジレバー (3) を引きます。クラッチレバー (2) を放してから加速します。
- ◆ 3 速、4 速、5 速へとギアチェンジする場合も、前記 2 項目の操作を繰り返してください。

⚠ 注意

ミキサーオイルリザーブランプ “” が点灯した場合、ミキサーオイルはリザーブに入った事を示します。直ちにミキサーオイルを補充して下さい、31 ページ (ミキサーオイルタンク) 参照。

ギアの「シフトダウン」は以下のような場合に必要です：

- ◆ 下り坂の走行やブレーキをかける際に、エンジンブレーキを併用することで制動効果をより高めたい時。
- ◆ 上り坂の走行で、現在のギアポジションが走行速度に適切でなく (ギアポジションに対して走行速度が低すぎる)、エンジン回転数が落ち始めた時。

⚠ 注意

シフトダウンは一段ずつ行ってください。同時に数段「シフトダウン」すると、最大許容回転数を超える「オーバーレブ」の原因となります。

「シフトダウン」の前および「シフトダウン」中は、スロットルグリップを戻し速度を落としてください。最大許容回転数を超える「オーバーレブ」の原因となります。

「シフトダウン」は次の手順で行ないます：

- ◆ スロットルグリップ (1) を戻します (A の位置)。
- ◆ 必要であれば、ブレーキレバーをゆっくり引き、車両スピードを落とします。
- ◆ クラッチレバー (2) を引き、ギアチェンジレバー (3) を下げてシフトダウンします。
- ◆ ブレーキをかけていた場合は、ブレーキを解除します。
- ◆ クラッチレバーを戻してからゆっくりと加速します。

⚠ 危険

加速および減速を繰り返し行くと突然車両のコントロールを失う危険があります。ブレーキを行う時は、両方のブレーキを均等に使用し、片方だけに負荷が掛からないようにして下さい。

フロントブレーキまたはリアブレーキのみを使用すると、ブレーキ力が減少し、ひとつのタイヤがブロックする可能性が高まり、制御力を失う恐れがあります。

上り坂でブレーキを掛ける場合は、完全に減速し、ブレーキのみで車両を停車するようにして下さい。
エンジンで車両を停車すると、クラッチが過熱します。

⚠ 危険

極限での急ブレーキで転倒や横滑りすることを避けるために、カーブに入る前に減速するか、回し速度を保ったままブレーキレバーを軽く握るか、または、軽く加速します。

下り坂でブレーキを連続的に使うとブレーキパッドが過熱し、制動力が弱まります。下り坂では必ずエンジンブレーキを活用し、フロントおよびリアブレーキは断続的に併用してください。
エンジンを止めた状態で傾斜を降りないでください。

濡れた路面や滑りやすい条件ではゆっくりと走行し、スリップや転倒の原因となる急ハンドル、急ブレーキを避けてください。

⚠ 危険

路上の障害物や路面状態の変化には最大限の注意を払ってください。
荒れた路面、鉄道のレール、マンホールの蓋、路上の塗装表示、工事現場の鉄板などは雨に濡れるとスリップしやすく危険です。このような場所では急なハンドル操作をせず、また車体をなるべく傾けずに走行してください。

車線変更や方向転換の際には早めにターンインジケータで意志表示をし、急なハンドル操作や危険な運転を避けてください。
車線変更、方向転換した後は直ちにウインカーライトを消灯してください。

他の車両を追い越したり、また、追い越されたりする間は、最大限の注意を払ってください。
降雨時に大型車を作る水雲は、視界をさえぎり、急激な空気の移動にハンドルを取られる危険性があります。

慣らし運転

⚠ 危険

最初の 1000 km (621,37 mi) 走行後、定期管理表、44 ページの“慣らし運転終了”の項目の点検作業を行って下さい。

エンジンの慣らし運転（ランニングイン）は、エンジンを長持ちさせ、正しい性能を引き出すためにとても重要です。エンジン、サスペンション、ブレーキが効果的にランニングインできるように、可能であれば、たくさんカーブや丘のある道を走るようにして下さい。

最初の 500 km (312 mi) 間は、以下に従って下さい：

0-100 km (0-62 mi)

最初の 100 km (62 mi) を過ぎるまでは、ブレーキの掛け方に十分注意して、急ブレーキや、長いブレーキングは行わないで下さい。これは、ブレーキディスクとパッドを正しく馴染ませるために重要です。

0-300 km (0-187 mi)

この間、スロットルグリップを半分以上回した状態を長く保たないで下さい。

300-500km (187-312 mi)

この間、スロットルグリップを 3/4 以上回した状態を長く保たないで下さい。

停車

⚠ 危険

急ブレーキ、急停止、限界までのブレーキなどはできるだけ避けてください。

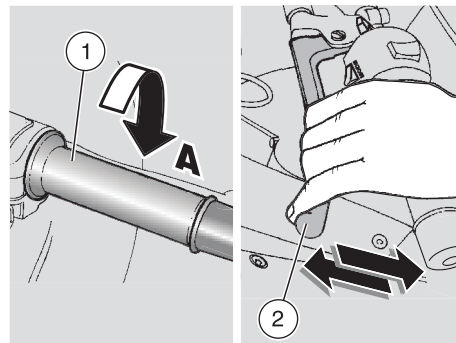
- ◆ スロットルグリップ (1) (ポジション A) を放し、ブレーキを徐々にかけ、ギアを完全にシフトダウンします、38 ページ（発進と走行）参照。

スピードが落ちたら、車両を完全に停車します。

- ◆ エンストを防止するためクラッチレバー (2) を引きます。

停車状態で：

- ◆ ギアチェンジレバーをニュートラルに入れます（緑のランプ“N”点灯）。
- ◆ クラッチレバーを放します。
- ◆ 一時停止中は、フロントまたはリア、少なくとも一方のブレーキをかけておきます。



パーキング

⚠ 危険

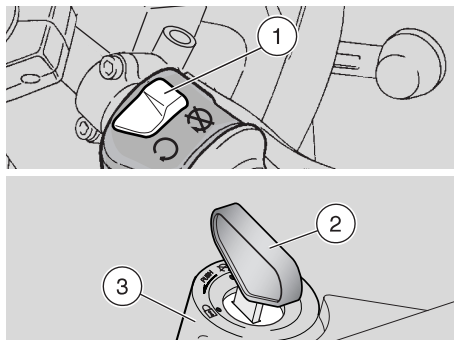
転倒を防ぐ為、平面で安定した場所に駐車してください。

車両を壁に立てかけたり、地面に寝かせたりしないで下さい。

車両の高熱を発する部分が周囲の人々や子供にとって危険にならないよう、十分に注意して下さい。

エンジンが掛かった状態や、イグニッションスイッチにキーを残した状態で車両を放置しないで下さい。

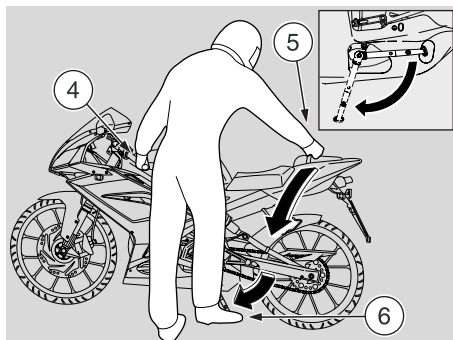
スタンドを使用している状態の車両にまたがらないで下さい。



- ◆ 車両を停車させます、41 ページ (停車) 参照。
- ◆ エンジnstopスイッチ (1) を “” の位置におきます。
- ◆ キー (2) をイグニッションスイッチ (3) の “” の位置まで回します。
- ◆ 車両をスタンドに配置します、側面参照 (スタンドの立て方)。

重要： キーをイグニッションスイッチに入れたままにしておかないで下さい。

- ◆ 25 ページ (ステアリングロック) を参照してステアリングをロックし、キーを抜き取ります。



スタンドの立て方

- ◆ 左グリップ (4) およびパッセンジャーベルト (5) を握ります。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
停車の状態から発進の状態に持つていくために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

- ◆ 右足でサイドスタンドを完全に押し下げます (6)。
- ◆ スタンドが地面に着くまで車体を傾けます。
- ◆ ハンドルを左側いっぱい切っておきます。

⚠ 危険

車体が安定している事を確認します。

盗難防止のために

⚠ 注意

ディスクロックする装置は使用しないでください。この注意が守られなかった場合は、ブレーキシステムを烈しく損傷したり、身体に重大な危害を与える、また場合によっては死に至る事故を引き起こす危険があります。

イグニッションスイッチにキーを挿し込んだままにしないでください。常にステアリングロックをかけてください。可能であれば、ガレージやガードマンのいる駐車場を利用しましょう。何らかの盗難防止装置を使用するようにしてください。関係書類に手落ちがないか、また税金は納入済みか確認してください。下の欄に必要事項を記入しておく、盗難車が発見された場合の所持者確認に役立ちます。

姓 :

名 :

住所 :

.....

電話番号 :

重要： このマニュアルに記入された事項のおかげで盗難車の所有者が確認されるケースがよくあります。



⚠ 危険

火災の危険があります。

電気系構成要素には、燃料及びその他の引火物を近づけないで下さい。

点検整備を始める前には必ずエンジンを止め、キーをイグニッションスイッチから抜いて、エンジンと排気系統が完全に冷えるのを待ちます。できれば作業用スタンドなどをを用い車体を持ち上げ、堅く水平な面に置きます。

作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。

火傷の危険がありますので、熱くなっているエンジンや排気系統に触れないよう充分注意してください。



⚠ 危険

車両の部品などを口に含まないでください。物質によっては、有害でとても危険です。

⚠ 注意

特に指示がない限り、パーツの取り付けは取り外し作業の逆の手順で行なってください。

メンテナンスの際はゴム手袋の着用をお薦めします。

通常のメンテナンスはユーザーも行なう事ができますが、中には特殊なツールや技術的知識を必要とするものもあります。

定期点検、アシスタンスサービス、技術的アドバイスなどが必要な場合は、お気軽に **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご相談ください。適切で迅速なサービスをお約束します。

修理や定期管理作業の後は **aprilia** 社オフィシャルディーラーにてロードテストを行う事をお奨めします。

維持管理作業を行った後は、個人的に、“事前チェック”を行ってください、35 ページ（走行前の点検）参照。

定期管理表

定期点検を適切に行う事により車両機能全てにおける性能の維持および高性能を発揮する事が可能となります。

apriliaは、このために必要な点検およびメンテナンス作業(有料)を提供します(次項参照)。機能に異常を感知された場合には、次回の点検時期を待たず、直ちに **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡いただくことが完全な修理を可能にします。

規定通りに点検作業が行われていない場合、保証対象から外れる場合があります。保証対象および定期メンテナンスに関する事項は保証書に記載されています。

1000 km (621 mi)、または2ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 点検
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 点検
ステアリング - 点検
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキオイル - 2年ごとに交換
ドライブチェーン - 点検
ドライブチェーン(張力) - 点検
ネジ類の締め付け - 点検
フロントフォーク(オイル) - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
タイヤ(空気圧) - 点検

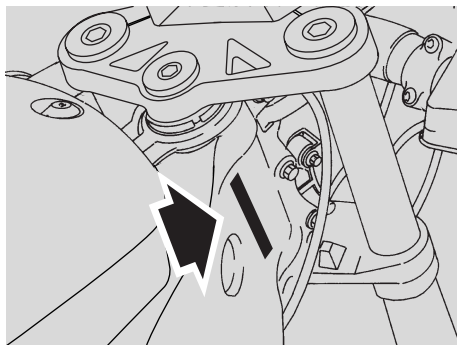
ナットおよびヘッドスクリュー - 点検
燃料パイプおよびオイル - 点検
車両テストおよびブレーキシステム - 点検
5000 km (3106 mi)、または12ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 交換
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 点検
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキオイルレベル - 点検
ブレーキオイル - 2年ごとに交換
ドライブチェーン - 交換
ドライブチェーン(張力) - 点検
ヘッドボルト類の締め付け - 点検
フロントフォーク(オイル) - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
タイヤ(状態および磨耗) - 点検
タイヤ(空気圧) - 点検
ホイールベアリング - 点検
ピストンリング - 点検
ナットおよびヘッドスクリュー - 点検
燃料パイプおよびオイル - 点検
車両テストおよびブレーキシステム - 点検

10000 km (6213 mi)、または 24ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 交換
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 交換
クーラー - 清掃
ステアリング - 点検
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキホース - 点検
ブレーキオイル - 2 年ごとに交換
ドライブチェーン - 交換
ドライブチェーン (張力) - 点検
ネジ類の締め付け - 点検
ヘッドボルト類の締め付け - 点検
フロントフォーク (オイル) - 交換
リアショックアブソーバー - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
ヘッドランプ - 調整
タイヤ (状態および磨耗) - 点検
タイヤ (空気圧) - 点検
ホイールベアリング - 点検
シリンダーヘッド - ピストン - 清掃
ピストンリング - 交換
燃料パイプおよびオイル - 交換
車両テストおよびブレーキシステム - 点検
オイルフィルター - 交換

15000 km (9320 mi)、または 36ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 交換
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 点検
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキオイルレベル - 点検
ブレーキオイル - 2 年ごとに交換
ドライブチェーン - 交換
ドライブチェーン (張力) - 点検
ヘッドボルト類の締め付け - 点検
フロントフォーク (オイル) - 点検
リアショックアブソーバー - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
タイヤ (状態および磨耗) - 点検
タイヤ (空気圧) - 点検
ホイールベアリング - 点検
ピストンリング - 点検
ナットおよびヘッドスクリュー - 点検
燃料パイプおよびオイル - 点検
車両テストおよびブレーキシステム - 点検

20000 km (12427 mi)、または 48ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 交換
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 交換
クーラー - 清掃
ステアリング - 点検
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキホース - 点検
ブレーキオイル - 2年ごとに交換
ドライブチェーン - 交換
ドライブチェーン (張力) - 点検
ネジ類の締め付け - 点検
ヘッドボルト類の締め付け - 点検
フロントフォーク (オイル) - 交換
リアショックアブソーバー - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
ヘッドランプ - 調整
タイヤ (状態および磨耗) - 点検
タイヤ (空気圧) - 点検
ホイールベアリング - 点検
ピストンリング - 交換
燃料パイプおよびオイル - 交換
車両テストおよびブレーキシステム - 点検

25000 km (15534 mi)、または 60ヶ月ごと
作業
スパークプラグ - 交換
エアフィルター - 清掃
キャブレター - 清掃および調整
冷却液 - 交換
ブレーキコントロールレバー - 潤滑
クラッチコントロールレバー - 調整
ブレーキパッド - 点検
ブレーキオイル - 2年ごとに交換
ドライブチェーン - 交換
ドライブチェーン (張力) - 点検
ヘッドボルト類の締め付け - 点検
フロントフォーク (オイル) - 点検
バッテリー：電極の締め付け - 点検
タイヤ (状態および磨耗) - 点検
タイヤ (空気圧) - 点検
ホイールベアリング - 点検
ピストンリング - 点検
ナットおよびヘッドスクリュー - 点検
燃料パイプおよびオイル - 点検
車両テストおよびブレーキシステム - 点検



車体識別データ

フレームナンバーおよびエンジンナンバーをこのページに書き控えておくようお勧めします。

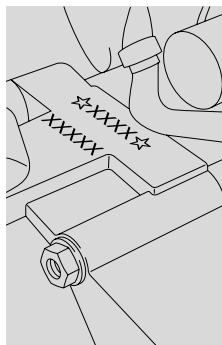
フレームナンバーはスペアパーツをオーダーする際に必要な場合があります。

重要： これらの識別番号を改ざんする事は重い刑事処罰および行政処罰の対象になります。特にフレームナンバーを改ざんした場合は車両保証の対象外になります。

フレームナンバー

フレームナンバーは車両右側のステアリングチューブ上に刻印されています。

フレームナンバー _____



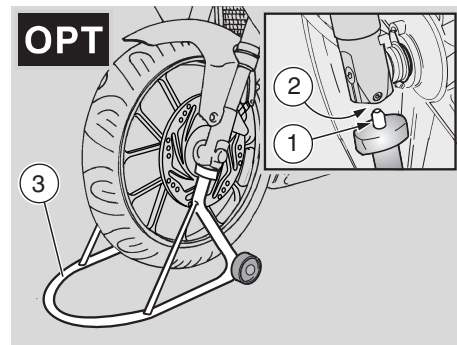
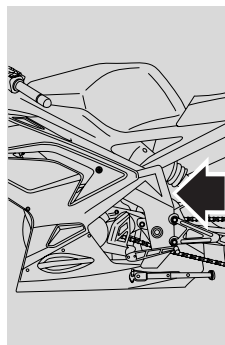
エンジンナンバー

(指定されている国のみ)

エンジンナンバーは車両左側のクランクケース上部、チェーンスプロケットの近くに刻印されています。

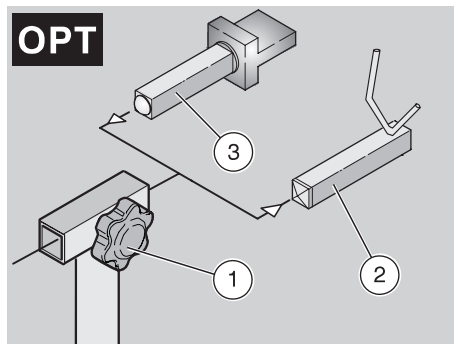
車両左側後部から見る事ができます。

エンジンナンバー _____



フロントサポートスタンドの立て方 **OPT**

- ◆ リアサポートスタンドに車両を配置します **OPT**、48 ページ (リアサポートスタンドの立て方 **OPT**) 参照。
- ◆ スタンド (1) 上のフロントフォークの下端部にある 2 つの穴 (2) に同時に 2 つの端部を挿入します。
- ◆ スタンド (3) の前部に足を乗せます。
- ◆ スタンド (3) をしっかり下まで押し下げます (図参照)。

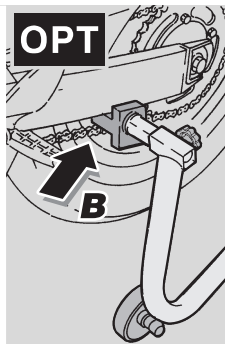
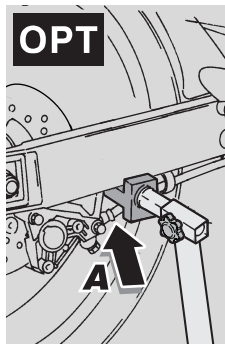


リアサポートスタンドの立て方 OPT

- ◆つまみ (1) を緩めます。
- ◆フォークサポート (2) を抜き取り、スタンドマウントから抜き取ります。
- ◆サポートピン (3) を取り付けます。
- ◆前記の作業をスタンドの反対側にも行って下さい。

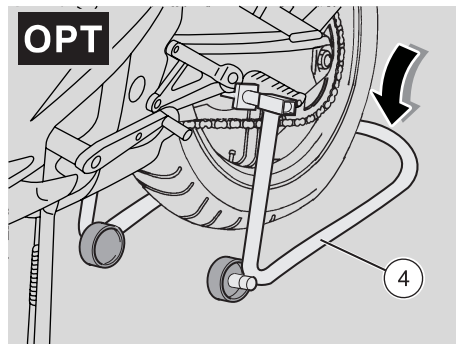
危険

2つのスイングアームのみを使用して、車両を持ち上げてください。

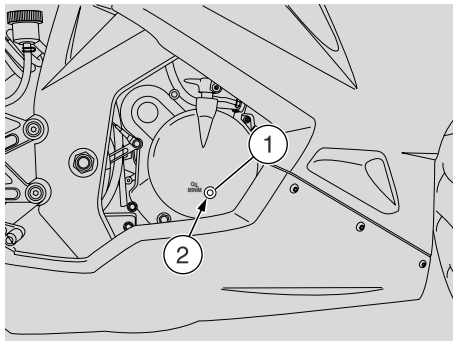


- ◆車両後部からスタンドを挿入し、2つのサポートピン (3) がはまるように配置します。
- 右側サポート：ブレーキキャリパーとスイングアーム上のブレーキホースコネクター間 (ポジション A)
- 左側サポート：歯付きホイールとチェーン間 (ポジション B)
- ◆サポートピン (3) をスイングアームに当たるまで抜きます。
- ◆2本のつまみ (1) を締め付けます。

重要： 誰かに手伝ってもらい、両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。



- ◆スタンド (4) の後部に足を乗せます。
- ◆スタンド (4) をしっかり下まで押し下げます (図参照)。



ギアオイルレベルの点検および補充

27 ページ (ギアボックスオイル), 43 ページ (メンテナンス) を注意して読んでください。

ギアオイルレベルを定期管理表、44 ページに従い点検します。

ブレーキ液の点検

重要： 車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

- ◆ エンジンを止め、最低 10 分は冷めるのを待ち、ケース内のオイルが排出され、オイルが冷えるのを待ちます。
- ◆ 右サイドフェアリングを取り外します、53 ページ (サイドフェアリングの取り外し) 参照。
- ◆ 点検ネジ (1) をゆるめて取り外します。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
停車の状態から発進の状態に持つていくために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保ちます。

重要： これらの指示に従わないと、レベルの測定を正確に行う事ができません。

- ◆ 右側からネジ (1) をゆるめて取り外します。
- ◆ 液面がネジ付き穴 (2) の下のラインに到達しているかを目視点検します。

届いている場合は：

- ◆ 点検ネジ (1) を締め付けます。

届いていない場合は：

- ◆ 補給します。

補給

必要な場合は補給します。

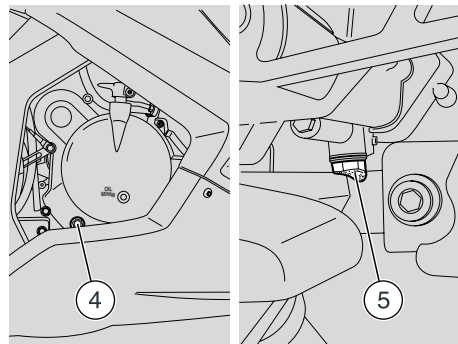
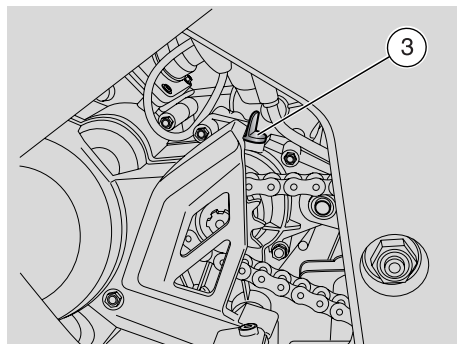
- ◆ 左側からフェアリングを取り外します、53 ページ (サイドフェアリングの取り外し) 参照。
- ◆ 右側からフィラープラグ (4) をゆるめて取り外します。
- ◆ 少量のオイルを注入し、約 1 分待ち、オイルが均等にケース内に回るのを待ちます。
- ◆ 液面がネジ付き穴 (2) の下のラインに到達しているかを右側から目視点検します。
- ◆ ラインに達していない場合は、ネジ付き穴 (2) から目視点検しながら、規定のレベルに到達するまで少量ずつオイルを補充します。
- ◆ 作業が終了したら、フィラープラグ (3) を右側から締め付けます。

⚠ 危険

プラグはオイルが漏れないよう、しっかり締め付けます。

ケースカバーのシール部分から漏れがないか、定期的に点検してください。

給油が足りないままや汚れたまま、不適当なオイルで車両を運転しないでください。部分的消耗を速め、取り返しの効かないダメージを起す原因となります。



ギアボックスオイルの交換

27 ページ (ギアボックスオイル), 43 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。ギアオイルレベルを定期管理表、44 ページに従い点検します。

エアフィルターの交換

- ◆ エンジンを始動させ、36 ページ (エンジンの始動) 参照、数分間アイドリングを保ち、オイルを回路内に循環させます。

重要： 車両を床が安定していて平らな場所に停車します。

- ◆ エンジンを停止します。

⚠ 危険

エンジンが暖機している時、オイル温度はとて高温ですので、以下の作業を行う際にやけどをしないよう注意して下さい。

- ◆ 左サイドフェアリングを取り外します、53 ページ (サイドフェアリングの取り外し) 参照。

⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。停車の状態から発進の状態に持つていくために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

- ◆ 両輪を地面に着けたまま車体を垂直に保持します。
- ◆ タンク内にある燃料を十分収められる大きさの容器を用意しドレンプラグ (5)(4) の位置に左側から置きます。
- ◆ 中央ケース (5) からドレンプラグをゆるめて取り外します。
- ◆ ケースカバー (4) からドレンプラグをゆるめて取り外します。

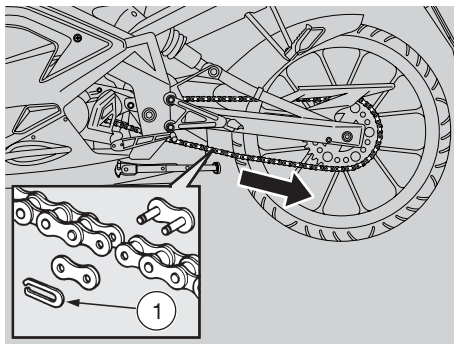
- ◆ 注入口のキャップ (3) を回して取り外します。
- ◆ 数分間そのままにし、容器 (1) の中へエンジンオイルを完全に排出させます。
- ◆ ドレンプラグ (5) のマグネットに付着した金属片を取り除きます。
- ◆ ドレンプラグ (4)(5) を締め付けます。
- ◆ 開口部 (3) から適切な量のギアオイル、68 ページ (テクニカルデータ) を補充します、71 ページ (指定油脂類表) 参照。
- ◆ フィラープラグ (3) を取り付けます。
- ◆ エンジンを始動させ、36 ページ (エンジンの始動) 参照、約 1 分間アイドリングを保ち、オイルを回路内に循環させます。

オイルレベルを点検し、必要であれば補充します、49 ページ (ギアオイルレベルの点検および補充) 参照。

⚠ 危険

プラグはオイルが漏れないよう、しっかり締め付けます。ケースカバーのシール部分から漏れがないか、定期的に点検してください。

給油が足りないままや汚れたまま、不適当なオイルで車両を運転しないでください。部分的消耗を速め、取り返しの効かないダメージを起す原因となります。



ドライブチェーン

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

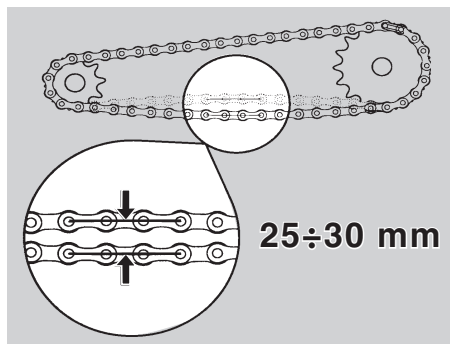
この車両には連続リンクタイプのチェーンが装備されています。

⚠ 危険

ゆるみすぎるとスプロケットからチェーンが外れ、事故を起こす原因になったり、車両に損害を与えたりします。

あそびを定期的に点検し、必要であれば調整を **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼してください。

チェーンの交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご依頼下さい、迅速かつ丁寧に対応いたします。



⚠ 注意

メンテナンスを怠ると、チェーンの早期磨耗およびスプロケットの損傷につながります。

埃や泥などのハードな条件下で車両を使用する場合は点検作業の頻度を増やして下さい。

チェーン張力の点検

チェーン張力の点検は以下の手順で行なってください：

- ◆ エンジンを停止します。
- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ ギアチェンジレバーをニュートラルにします。
- ◆ チェーン下部のフロントおよびリアスプロケット間の中間点の垂直のたわみが 25 ~ 30 mm であるかを点検します。

- ◆ 車両を前に動かし、チェーンの垂直のたわみを別の位置でも点検します。たわみは車輪がどの位置にあっても同等でなければなりません。

⚠ 注意

たわみが他の部分と違う場所がある場合は、潰されているか詰まっているリンクがある事を示します。この場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡して下さい。これらの危険を予防する為、チェーンは頻繁に潤滑してください、52 ページ (チェーンの清掃と潤滑) 参照。

たわみが一定であっても、25 ~ 30 mm 以外である場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼し、調整を行って下さい。

チェーン、フロント/リアスプロケットの 磨耗点検

チェーン、フロント・リアスプロケットに以下の状況がないかを点検してください。

- ◆ ローラーの損傷
- ◆ ピンのゆるみ
- ◆ リンクの乾燥、錆び、つぶれ、圧痕
- ◆ 過度の磨耗
- ◆ 各スプロケットの歯の極端な摩耗、損傷

⚠ 注意

チェーンローラーが損傷している場合、またはピンがゆるんでいる場合は、チェーンユニット内部（フロントおよびリアスプロケット、チェーン）を交換する必要があります。

⚠ 注意

頻繁にチェーンの潤滑を行ってください。オイル切れ、錆びなどが見られる場合は特に頻繁に実施してください。また、潰れたり固着した部分は、スムーズに動くよう潤滑と修理が必要です。修理が不可能な場合には **aprilia** 社オフィシャルディーラーにチェーンの交換をご依頼ください。

- ◆ スイングアーム保護シールの磨耗を点検します。

チェーンの清掃と潤滑

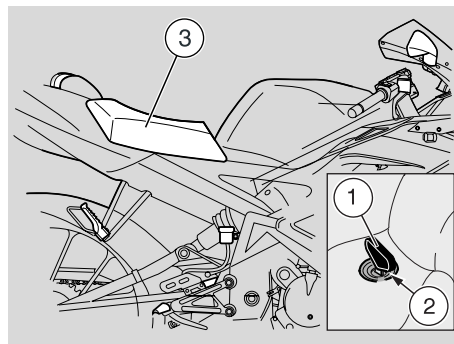
⚠ 注意

チェーンの潤滑、清掃、交換などの作業の際は細心の注意が必要です。

チェーンの潤滑は 5000 km (3106.8 mi) 走行ごと、また必要に応じてさらに頻繁に行なってください。

チェーン用スプレーグリスまたは SAE 80W-90 オイルを使用して、チェーンを潤滑します。

チェーンはウォータージェット、蒸気、発火性の高い溶剤を使用して洗わないで下さい。



ライダーシートの取り外し

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

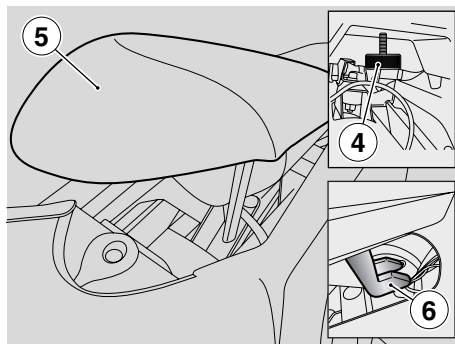
- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ キー (1) をロック (2) に挿し込みます。
- ◆ キー (1) 時計回りに回します。
- ◆ ライダーシート (3) を持ち上げて取り外します。

取り付けには：

- ◆ シート後部のつめ (4) をテールガードに差し込みます。
- ◆ シートを下げます。
- ◆ キー (1) 反時計回りに回し、シートをロックします。

⚠ 危険

走行前にはライダーシート (3) が確実にロックされていることを確認してください。



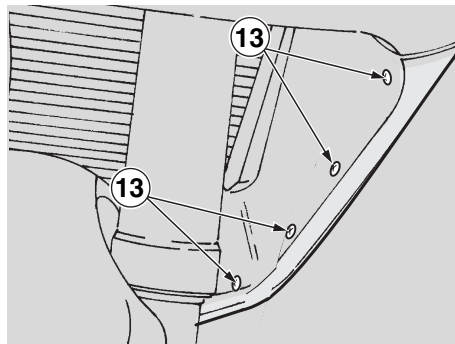
パッセンジャーシートの取り外し

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

- ◆ ライダーシートを取り外します、52 ページ (ライダーシートの取り外し) 参照。
- ◆ つまみ (4) を緩めて外し、カラーとワッシャーを回収します。
- ◆ 上からパッセンジャーシート (5) をフック (6) から抜き取ります。

⚠ 危険

走行前にはシート (5) が確実にロックされていることを確認してください。



サイドフェアリングの取り外し

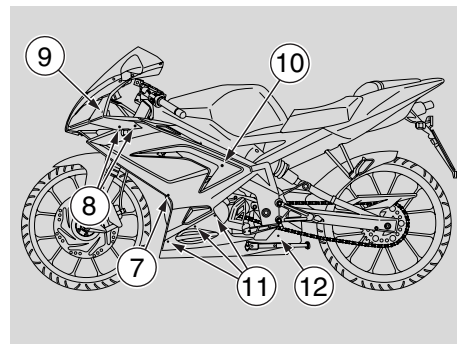
43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

- ◆ 記載されている作業は両方のサイドフェアリングに共通の作業です。

⚠ 危険

火傷の危険がありますので、以下の作業はエンジンおよびマフラーが常温に戻ってから行なってください。

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ 2本のねじ (8) をゆるめて取り外します。
- ◆ ネジ (9) をゆるめて取り外します。
- ◆ 中央のネジ (10) を緩めて外し、カラーを充填します。
- ◆ 中央ネジ (7) をゆるめて取り外します。
- ◆ 3本の下部ネジ (11) をゆるめて取り外します。
- ◆ 4本のネジ (13) をゆるめて外します。
- ◆ フロントガードを取り外します。



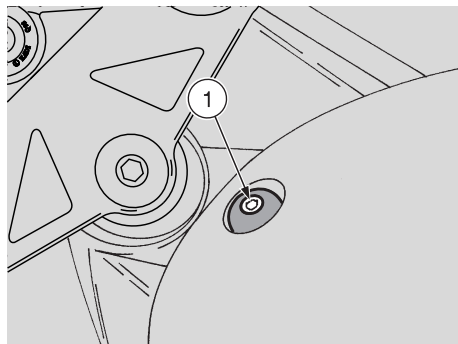
⚠ 注意

プラスチック製および塗装部品は傷を付けないように丁寧に扱ってください。配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ ターンインジケーターの2つの電極を切り離します。
- ◆ サイドフェアリングを外します。

ロアタグの取り外し

- ◆ 両側から3本のネジ (11) をゆるめて外します。
- ◆ ネジ (12) をゆるめて取り外します。
- ◆ ロアタグを取り外します。



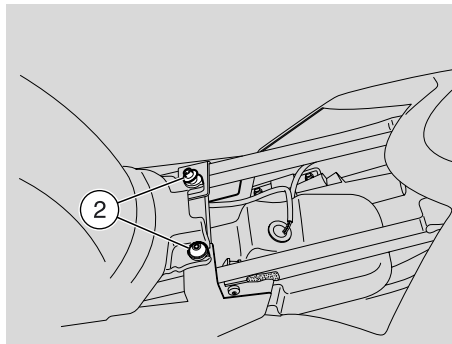
燃料タンクの移動

27 ページ (燃料) および 43 ページ (メンテナンス) をよく読んでください。

⚠ 危険

火災の危険があります。
マフラーとエンジンが完全に冷えるまで待ってください。燃料の蒸気は有害物質です。
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。
燃料の蒸気を吸い込まないよう注意してください。
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

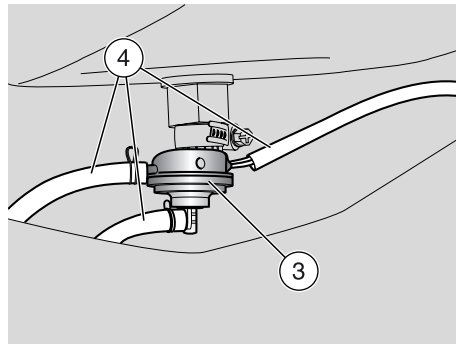
環境汚染を防ぐために、燃料を所定の場所以外に放置しないで下さい。



- ◆ ライダーシートを取り外します、52 ページ (ライダーシートの取り外し) 参照。
- ◆ ネジ (1) を緩めて外し、ワッシャーを回収します。
- ◆ 2 本のネジ (2) をゆるめて外し、2 つのカラを回収します。
- ◆ タンクを持ち上げ、シートを支えにして後部にずらしします。

⚠ 注意

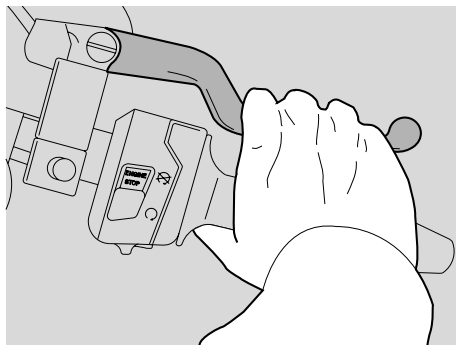
タンクを持ち上げる作業は丁寧に行ってください。
燃料パイプ (4) を無理に引っ張らないで下さい。



⚠ 注意

フューエルコック (3) に注意して下さい。
パイプ (4) を潰さないように気を付けて下さい。燃料が溢れ出す危険があります。

- ◆ 取り付け作業は、この章の作業を逆の順に行ってください。

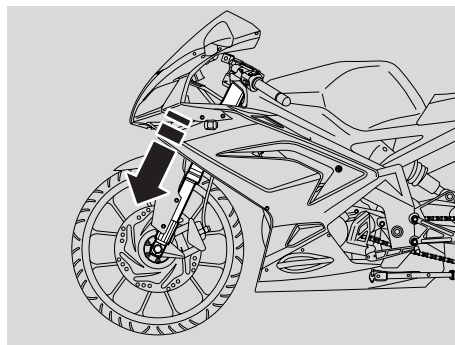


フロント/リアサスペンションの点検

⚠ 注意

フロントフォークオイルの交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラーにご依頼下さい、迅速かつ丁寧に対応いたします。

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。



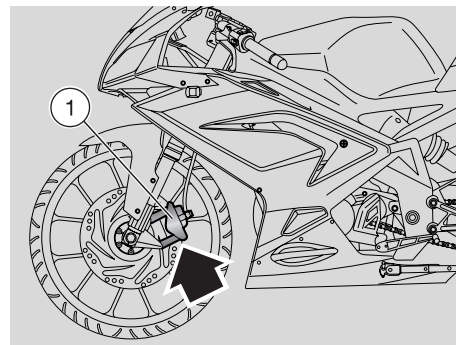
フロントフォークオイルを定期管理表、44 ページを参照し、交換します。

5000 km (3106.8 mi) ごとに下記の点検作業を行います。

- ◆ フロントブレーキレバーを引いた状態で、繰り返しハンドルバーを押下げてフロントフォークを押込みます。フォークがゆっくり滑らかに上下し、フォークロッドにオイルが漏れていなければ正常です。
- ◆ 全ての部品の取り付けに緩みがないか、フロントおよびリアサスペンションの連結部が正常に機能しているか、確認してください。

⚠ 注意

機能が正常に働かない場合や、特殊技術者のチェックが必要な場合は、**aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。



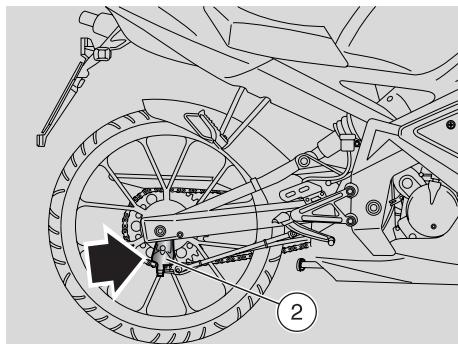
パッドの磨耗点検

28 ページ (ブレーキオイル - 注意事項)、28 ページ (ディスクブレーキ)、43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

以下の説明は一つのブレーキシステムについてですが、前後輪ともに共通です。

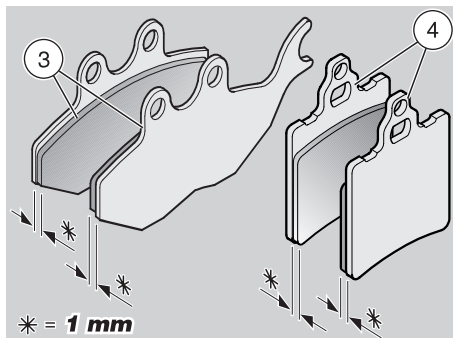
定期管理表、44 ページを参照してブレーキパッドの磨耗点検を行います。ブレーキパッドの摩耗は使用状況、運転の仕方、道路状態などによって変わります。

走行前には毎回、必ずブレーキパッドの摩耗を点検してください。



磨耗点検を手早く行うには：

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ ブレーキキャリパーとパッド間を以下のようにして目視点検します：
 - 前輪の場合はブレーキキャリパー(1)の下方から前方へ向かって。
 - 後輪の場合はブレーキキャリパー(2)の下方から前方へ向かって。



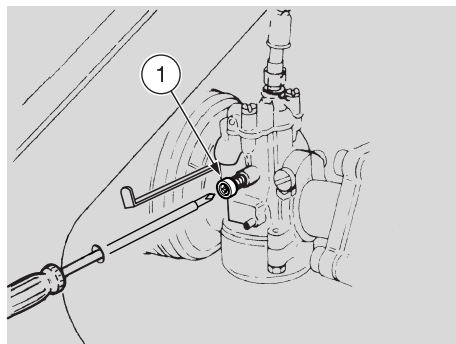
⚠ 危険

磨耗部品が許容範囲を超えて磨耗していると、パッドの金属部サポートとディスクの接点から金属音を出すだけでなく、キャリパーから火花が出る結果となり、ブレーキング力、安全性、ディスクの状態を保つ事が出来なくなります。

- ◆ 磨耗部分の厚さが約 1mm になっている場合は、それが片方であっても、両方のパッドを交換して下さい。
- フロントパッド (3)
- リアパッド (4)

⚠ 危険

交換は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。



アイドリングの調整

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

エンジンアイドリングに異変があるたびに調節を行います。

この作業を行うには；

- ◆ エンジンの通常機能に適した温度になるまで、数キロ走行してください、15 ページ (冷却液温度インジケーター 参照)。
- ◆ ギアチェンジレバーをニュートラルに入れます (緑のランプ “N” 点灯)。
- ◆ タコメーターでエンジンアイドリング回転数を点検します。
アイドリング時の回転数は約 1600 ± 100 rpm です。

清掃が必要な場合は：

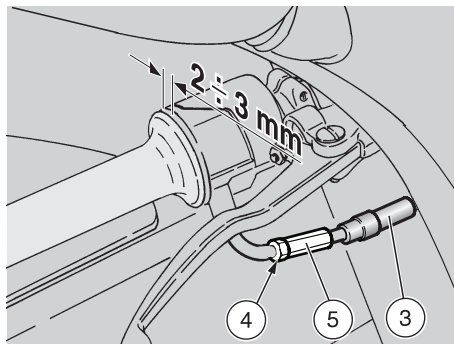
- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ プラスドライバーを穴に挿入し、キャブレター上にある調整ネジ (1) を操作します。

時計回りに回すと回転数は増します。

反時計回りに回すと回転数は減ります。

- ◆ 調節終了後、エンジンアイドリング rpm に変更がないか、スロットルグリップを回した後、自動的に、スムーズに元の位置に戻るかを確かめてください。

重要： 必要な場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。



スロットルコントロールの調整

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

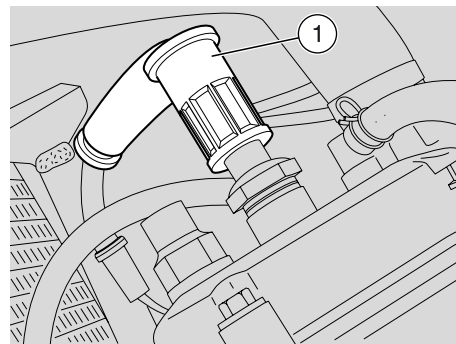
グリップ端部で測定したスロットルグリップの遊びは 2 ～ 3 mm でなければなりません。

そうでない場合は次に従ってください：

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ 保護ラバー (3) を抜き取ります。
- ◆ ロックナット (4) を緩めます。
- ◆ 遊びが適切になるよう、アジャスター (5) を回して調整します。
- ◆ 調整後、ロックナット (4) を締め、再度スロットルグリップの遊びを点検します。
- ◆ 保護ラバー (3) を元どおりかぶせます。

⚠ 危険

遊びを調整した後は、ハンドルをどの角度に回してもアイドリング回転数が常に一定であること、また、スロットルグリップは手を離すとスムーズに定位置に戻ることを確認してください。



スパークプラグ

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

定期管理表、44 ページを参照してスパークプラグを清掃します。

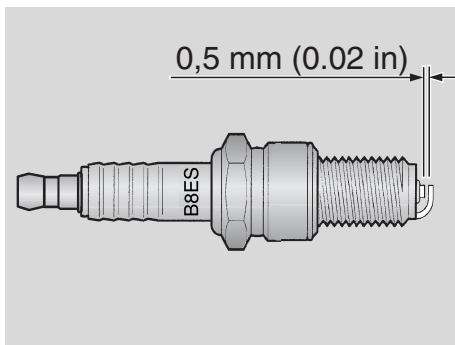
それ以外にも定期的にスパークプラグを取り外して付着したカーボンなどを取り除き、必要場合は交換してください。

スパークプラグを取り扱うには：

- ◆ 左サイドフェアリングを取り外します、53 ページ (サイドフェアリングの取り外し) 参照。

スパークプラグの取り外しと清掃：

- ◆ スパークプラグキャップ (1) を取り外します。
- ◆ 汚れをスパークプラグからよく取り除き、ツールキットにあるスパナーを利用して、汚れが入らないように注意しながら、スパークプラグを緩めて抜き取ります。



- ◆ 電極と中央の陶器部分にカーボンなどの汚れがついてないかよく確認し、必要の場合は、スパークプラグ専用クリーナーや鉄線、金属ブラシなどを使用してきれいにします。
- ◆ エンジンに埃を入れないために、空気を強く吹き付けて埃を取りはらいます。もし絶縁部にひび割れなどがある場合は、電極が侵食したり、埃がたまったりするので、交換が必要です。
- ◆ 電極間の距離を測ります。この距離は **0.5 mm** でなければなりません。そうでない場合はアースの電極をゆっくり曲げて調整します。
- ◆ ワッシャーの状態も点検してください。ワッシャーを取り付け、ネジ山をいためないよう注意深くスパークプラグを手でねじ込んでください。
- ◆ ツールキットのレンチを使用して、スパークプラグを1/2回転回し、ワッシャーを押し付けます。

スパークプラグ締め付けトルク：
20Nm (2kgm)

⚠ 注意

スパークプラグはしっかり締め付けられていないと、エンジンが過熱し、大きな損傷を負う危険性があります。

必ず推奨スパークプラグのみを使用してください。68 ページ（テクニカルデータ）参照。それ以外のスパークプラグではエンジンの性能が損なわれたり寿命が短くなったりします。

- ◆ スパークプラグにキャップをエンジンの振動で外れたりしないようしっかりとぶせます。
- ◆ 燃料タンクを元の位置に配置します。

バッテリー

43 ページ（メンテナンス）を注意して読んで下さい。

この車両に搭載されているバッテリーはメンテナンスフリータイプです。

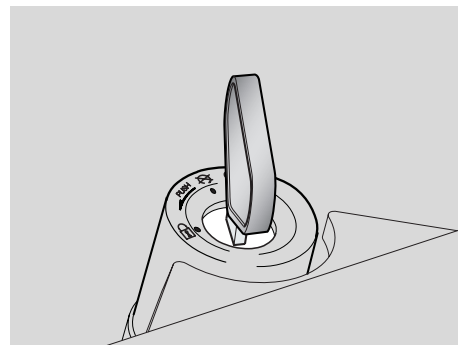
⚠ 危険

バッテリーは爆発性ガスを生ずるので、火花、タバコなど加熱物は遠ざけてください。

バッテリー充電中または使用中は、室内の換気に注意して下さい。チャージ中に発生するガスを吸い込まないように注意して下さい。

子供の手の届かない場所に保管してください。

バッテリー液がこぼれる危険性があるので、車両をあまり傾けないで下さい。



⚠ 注意

バッテリーケーブルの極性を決して逆にしないでください。

バッテリーを接続/切り離す際は、イグニッションスイッチが“OFF”でなければなりません。

バッテリーケーブルを接続するときは (+) を先に、(-) を後に接続します。ケーブルを外すときは逆の順序で外します。

バッテリーを長期間使用しない時

車両を 15 日間以上使用していない場合は、バッテリーを充電しなおす必要があります。59 ページ（バッテリーの充電）参照。

- ◆ バッテリーを外し、59 ページ（バッテリーの取り外し）参照、涼しく、乾燥した場所に保管します。

特に冬期や長期間使用しない場合には、バッテリーの劣化を防ぐため定期的に（毎月 1 回程度）バッテリーの充電状態を点検し充電してください。

- ◆通常のバッテリーチャージャーを使用して完全に充電します。59 ページ (バッテリーの充電) 参照。
- 車両に搭載したままの場合は、バッテリーケーブルを電極から外してください。

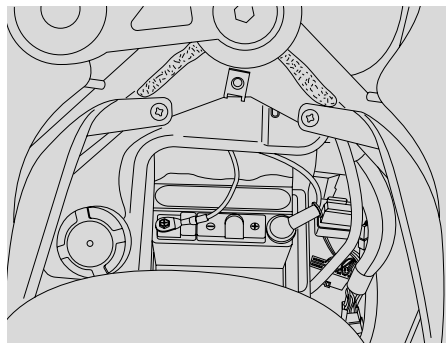
ターミナルおよび電極の点検と清掃

58 ページ (バッテリー) を注意して読んで下さい。

- ◆燃料タンクを持ち上げます、54 ページ (燃料タンクの移動) 参照。
- ◆バッテリーの電極およびケーブルターミナルの状態を点検します：
 - 損傷などがなく良い状態であること (また、錆や付着物が無いこと)。
 - 中性グリースまたはワセリンで保護されていること。

清掃が必要な場合は：

- ◆イグニッションスイッチが "⌘" の位置になっていることを確認します。
- ◆ケーブルはマイナスケーブル (-)、プラスケーブル (+) の順でバッテリーから取り外します。
- ◆金属製のブラシを使用して腐食部分を全て取り除く。
- ◆プラスケーブル (+)、マイナスケーブル (-) の順で再びバッテリーに取り付けます。
- ◆ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。



バッテリーの取り外し

58 ページ (バッテリー) を注意して読んで下さい。

- ◆イグニッションスイッチが "⌘" の位置になっていることを確認します。
- ◆燃料タンクを持ち上げます、54 ページ (燃料タンクの移動) 参照。
- ◆ケーブルはマイナスケーブル (-)、プラスケーブル (+) の順でバッテリーから取り外します。
- ◆バッテリーをマウントから取り外し、平面で乾燥していて涼しい場所に保管します。

⚠ 危険

取り出したバッテリーは安全で子供の手の届かない場所に保管してください。

バッテリーの充電

58 ページ (バッテリー) を注意して読んで下さい。

- ◆バッテリーを取り外します。
59 ページ (バッテリーの取り外し) 参照。
- ◆バッテリーを充電器に接続します。
- ◆アンペア数が 1/10A のチャージャーを使用します。

⚠ 注意

充電後もしばらくの間ガスが発生し続けますので、バッテリーは充電器から取り外した後 5 ~ 10 分程度待ってから取り付けてください。

バッテリーの取り付け

58 ページ (バッテリー) を注意して読んで下さい。

- ◆イグニッションスイッチが "⌘" の位置になっていることを確認します。
- ◆バッテリーを元の場所に戻します。

⚠ 注意

硫酸の蒸気避け、電気システム、塗装部、ゴム製部品などを腐食させないために、バッテリー息継ぎパイプを必ず接続する。

- ◆プラスケーブル (+)、マイナスケーブル (-) の順で再びバッテリーに取り付けます。
- ◆ターミナルおよび電極に中性グリースまたはワセリンを塗布します。
- ◆燃料タンクを元の位置に配置します、54 ページ (燃料タンクの移動) 参照。

ヒューズの交換

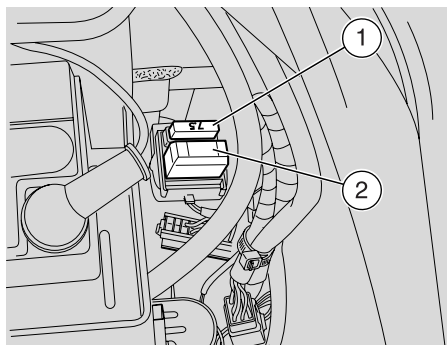
43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

⚠ 注意

欠陥のあるヒューズを修理して使わないで下さい。
規格に合ったヒューズ以外は決して使わないでください。
ショートした場合には電気系統に損傷を与えるだけでなく火災の危険もあります。

重要： ヒューズがよく切れる場合は、回路がショートしているか、オーバーヒートしている可能性があります。この場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに相談してください。

電気システムに異常がある、またはエンジンの始動ができないなどの場合は、ヒューズ (1) をチェックする必要があります。



エンジンオイルの点検は次の手順で行なってください：

- ◆ 思いがけないショートを避けるため、イグニッションスイッチを“”の位置に回します。
- ◆ 燃料タンクを移動させます、54 ページ (燃料タンクの移動) 参照。
- ◆ ヒューズ (1) を抜き取り、フィラメントが切れていないかを点検します。
- ◆ 可能であれば、交換する前にヒューズが切れた原因を発見してください。
- ◆ 損傷したヒューズを付属のスペア (2) ヒューズまたは同じアンペアのヒューズと交換します。

重要： スペアヒューズ (2) を使用した場合は、同じタイプの物を補充してください。

ヒューズの配置

7.5 A のヒューズ、バッテリーから：
別の電源供給ラインを持つランプシステム以外の全ての電装系

マフラーおよびエキゾーストサイレンサーの清掃

43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

定期管理表、44 ページを参照して、マフラーのパイプおよびエキゾーストサイレンサーのパイプを清掃します。

このメンテナンスは **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼される事を推奨します。

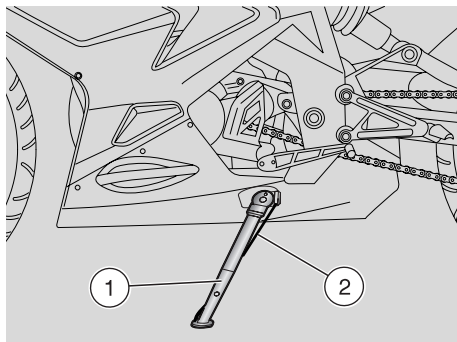
⚠ 注意

定期的にマフラーの音を点検し、異常がある場合、マフラーに亀裂が入っている可能性があります。

その場合 **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡し、点検および修理を行って下さい。

⚠ 注意

マフラーおよびエキゾーストサイレンサーが搭載されていない車両の使用は法律で禁じられています。
これらの部品を規格外のものとの交換する事も禁じられています。



サイドスタンドの点検

43 ページ (メンテナンス) および 61 ページ (スイッチ類の点検) をよく読んでください。

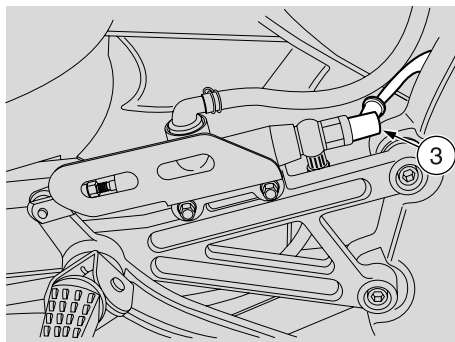
⚠ 危険

転落や転倒の危険があります。
停車の状態から発進の状態に持つために車体を起こすとスタンドは自動的に元の場所に戻ります。

サイドスタンド (1) は引っかかりなどがなくスムーズに回らなければなりません。

以下の点検を行なってください：

- ◆ スプリング (2) に損傷、摩耗、錆び、劣化などが点検します。
- ◆ スタンドを上げるときにスムーズであることを確認します。必要であれば、接続部分を潤滑してください。71 ページ (指定油脂類表) 参照。

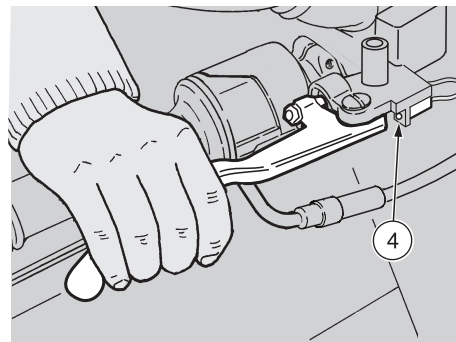


スイッチ類の点検

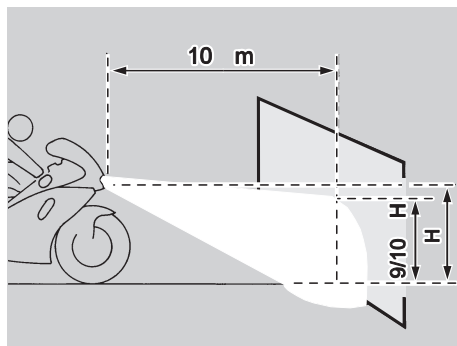
43 ページ (メンテナンス) を注意して読んで下さい。

この車両には次の2つのスイッチが付いています：

- リアブレーキコントロールレバー(3)上のストップランプスイッチ



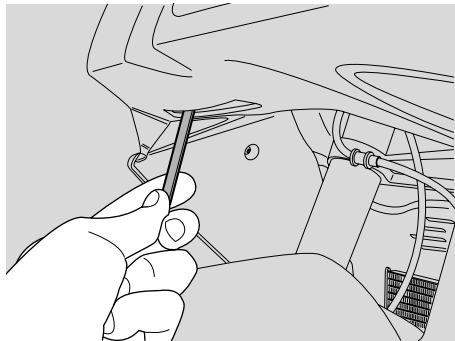
- フロントブレーキコントロールレバー(4)上のストップランプスイッチ
- ◆ スwitchに泥などの汚れが溜まっていないかを点検します。ペグはスムーズに動く状態であればなりません。
- ◆ ケーブルが正しく接続されているか確認してください。



ヘッドランプ光軸の垂直調整

手早くかつ正確にヘッドランプ角度を確認するには、車両を垂直な壁から 10m 離れた場所に停車します。地面が平らであることを確認してください。

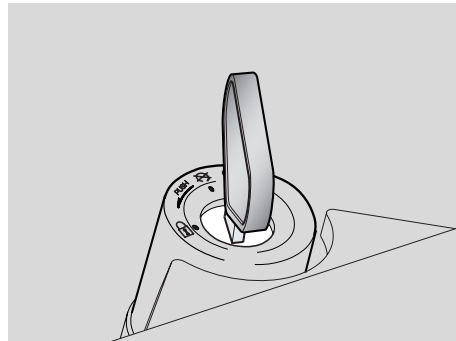
ロービームを点け、車両にまたがり、ランプの角度が水平より少し下を向いている状態（車両高さの 90% 程度）であるかを確認します。



ヘッドランプ光軸の調整方法：

◆ ヘッドランプの下部から 8 mm のレンチを使用して調整ネジを操作します。締め付ける（時計回りに回す）と光軸は下がります。

ゆるめる（反時計回りに回す）と光軸は上がります。



電球

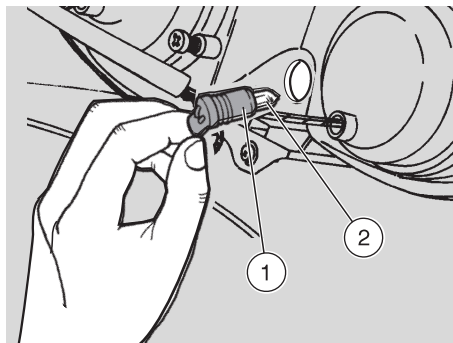
43 ページ（メンテナンス）を注意して読んで下さい。

⚠ 注意

電球を交換する前に、イグニッションスイッチを“”にします。また、きれいな手袋をはめるか、きれいな乾いた布で電球を持つようにしてください。

電球の過熱や破裂の原因となりますので、電球を指紋などで汚さないでください。損傷を避けるために、電球を素手で触った場合には、アルコールを使い指紋などの汚れをふき取ってください。

配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。



ヘッドランプ電球の交換

62 ページ (電球) を注意して読んで下さい。

- ◆ スタンドに車両を配置します。

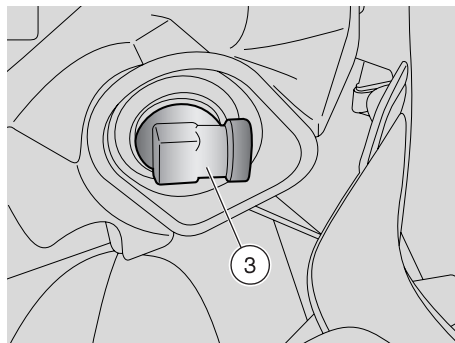
重要： 電球を交換する前に、ヒューズを点検します、60 ページ (ヒューズの交換) 参照。

ヘッドランプには以下の電球が取り付けられます。

- ◆ ハイビーム電球 (1) (右側) 1 個
 - ◆ パーキングランプ電球 (2) (下部) 1 個 (指定された国のみ)
 - ◆ ロービーム電球 (3) (左側) 1 個
- ハイビーム電球とロービーム電球は同じ形です。

片方が損傷し、替えの電球がない場合は、ハイ / ロービーム電球間で交換する事が出来ます。

この作業はその後そのまま使用するためのものではなく、新しい電球を入手するまでの応急処置です。



交換方法：

パーキングランプ電球
(指定された国のみ)

⚠ 注意

電球のホルダーを取り出す際に配線ケーブルを引っ張らないよう注意してください。

- ◆ ヘッドランプフェアリングの下部から電球ホルダー (1) をつかみ、マウントから取り外します。
- ◆ パーキングランプ電球 (2) を抜き取り、同じタイプの電球と交換します。

ハイビーム電球

重要： 取り付ける際の入れ間違いを避けるため、ホルダーは一つずつ取り出してください。

同時に複数の電球を取り外す必要がある場合は、正しい配置をよく確認して下さい。

- ◆ ヘッドランプフェアリングの右側後方からコネクターを取り外します。
- ◆ ホルダー (3) を反時計回りに回して抜き取ります。
- ◆ ターンインジケーターランプ電球を抜き取ります。

重要： 電球をホルダーの所定の位置に取り付けます。

- ◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。

ロービーム電球

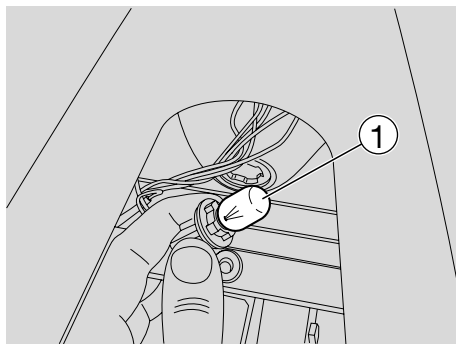
重要： 取り付ける際の入れ間違いを避けるため、ホルダーは一つずつ取り出してください。

同時に複数の電球を取り外す必要がある場合は、正しい配置をよく確認して下さい。

- ◆ ヘッドランプフェアリングの左側後方からコネクターを取り外します。
- ◆ ホルダーを反時計回りに回して抜き取ります。
- ◆ ターンインジケーターランプ電球を抜き取ります。

重要： 電球をホルダーの所定の位置に取り付けます。

- ◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。



- ◆ パッセンジャーシートを取り外します、53 ページ (パッセンジャーシートの取り外し) 参照。
- ◆ 電球 (1) を反時計回りに 1/4 回転させ、ホルダー後方から抜き取ります。

重要： 取り付ける際は、電球についている 2 つのペグをホルダーにあるガイドにはめ込み取り付けます。

- ◆ 新品の同じタイプの物を正しく取り付けます。

フロント / リアターニンジケーターランプ電球の交換

この車両のターニンジケーターには特殊な電球を使用していますので、交換作業は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに依頼する事をお勧めします。

テールランプ電球の交換

62 ページ (電球) を注意して読んで下さい。

重要： 電球を交換する前に、ヒューズの点検を行い、60 ページ (ヒューズの交換) 参照、ストップランプスイッチの機能を点検します、61 ページ (スイッチ類の点検) 参照。

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ ライダーシートを取り外します、52 ページ (ライダーシートの取り外し) 参照。



⚠ 危険

車両を輸送する前に、燃料タンクおよびキャブレターからオイルを完全に抜き取り、乾燥させる必要があります。

移動中、燃料、オイル、冷却液が車両から漏れないように、垂直なポジションを保ち、1 速にギアを入れた状態で、しっかり固定されていなければなりません。

⚠ 危険

故障した場合は、危険ですので自分で車両を引こうとせず、専門の業者を呼んで下さい。

燃料の抜き取り

27 ページ (燃料) を注意して読んで下さい。

⚠ 危険

火災の危険があります。
サイレンサーとエンジンが完全に冷えるまで待ってください。
燃料の蒸気は有害物質です。
作業を開始する前に作業場の換気を確認してください。
燃料の蒸気を吸い込まないように注意してください。
作業場では煙草を吸ったり裸火を扱ったりしないでください。

環境汚染を防ぐために、燃料を所定の場所以外に放置しないで下さい。

- ◆ スタンドに車両を配置します。
- ◆ エンジンを停止し、冷めるまで待ちます。
- ◆ タンク内にある燃料を十分収められる大きさの容器を用意し、車両の左側に置きます。
- ◆ 燃料タンクのキャップを外します。
- ◆ 燃料を抜き取るには、手動ポンプかその様な物を使用します。

⚠ 危険

燃料を空にした後は、キャップを閉めます。

キャブレターを空にするには：

- ◆ エンジンを始動させます、36 ページ (エンジンの始動) 参照。
- ◆ 燃料がなくなり、エンジンが止まるまで数回加速します。

必要な場合は **aprilia** 社オフィシャルディーラーに連絡してください。



次のような特殊な地域や条件下で車両を使用した場合は頻繁に清掃を行なってください：

- ◆ 環境汚染地域（市街地、工場地区）
- ◆ 塩分や湿気の多い環境（海岸、熱くて湿気の多い地方）
- ◆ 特別な環境・季節（冬季は道路に塩や凍結防止剤が撒かれた場合など）
- ◆ 車両に溜まった埃や車のタール、虫、鳥の糞などをそのままにしておかないで下さい。
- ◆ 木の下に車両を駐車しないで下さい。季節によっては、樹脂や実や葉など塗装部分に損害を起す物が落ちてきます。

⚠ 危険

洗車後はブレーキシステムの摩擦面に残った水分のせいでブレーキの効きが悪くなることがあります。事故防止のために早めにブレーキをかけるようにしてください。何度もブレーキを使用し、通常の状態に戻るようにしてください。

事前チェックを行って下さい、35 ページ（走行前の点検）参照。

塗装部分の汚れや泥を取り除くには、低圧のウォータージェットを使用する必要があります。汚れた部分をよく濡らし、水とシャンプーを含んだ（水に対し 2 ～ 4% の割合のシャンプー）スポンジで拭き取ります。その後、よく水をかけ、水分をシャモア革で拭き取ります。

エンジンの表面の掃除は、脱脂液、筆や布を使用して行います。

⚠ 注意

シリコンワックスで磨き上げるときは、よく洗車 / 乾燥した後に行ってください。

オパークカラーの塗装にペーストワックスを使わないでください。

夏の日光下で洗車を行わないで下さい。洗い流す前にシャンプーが乾いてしまい、塗装部分に損傷を与える可能性があります。

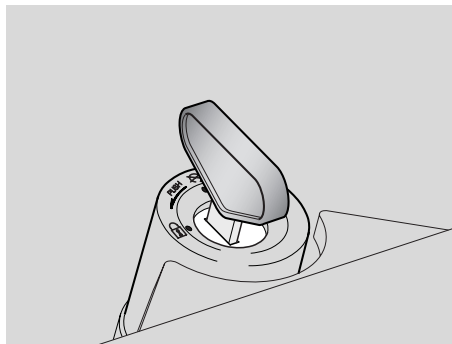
車体のプラスチック部品の清掃には 40 °C を超える液体は使用しないで下さい。

次の部分に高圧ウォータージェット、エアージェット、蒸気ジェットなどを使用しないで下さい：ホイールハブ、両ハンドル上のコントロールユニット、ベアリング、ブレーキシリンダー、計器とインジケーター、サイレンサー、書類 / ツールキット入れトランク、イグニッションスイッチ / ステアリングロック

ゴム、プラスチック部品にはアルコール、ガソリン、石油系溶剤を使用せず、水および中性洗剤のみを使用して下さい。シート部の清掃には溶剤または石油系洗剤（アセトン、トリクロロエチレン、テレピン油、ガソリン、希釈剤）は使用しないで下さい。界面活性度が 5% 以下の中性石鹼、脱脂洗剤またはアルコールを使用してください。清掃が終わったら、シートをよく乾かしてください。

⚠ 危険

シートにワックスなどを塗ると滑って危険なので、使用しないでください。



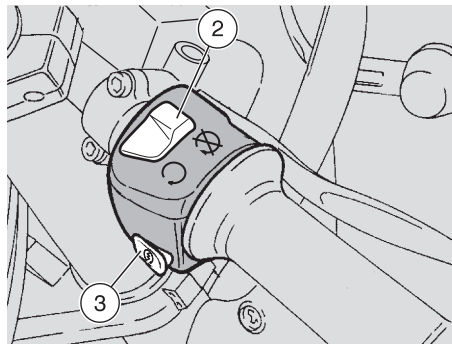
長期間の未使用

長期間使用の予定がない場合は、トラブルを避けるためにいくつかの注意が必要です。

使用前にしなければならない点検を忘れてしまう可能性もありますので、車両を停車する前に、必ず、修復や主要チェックを行ってください。

次の作業を行なってください：

- ◆ スパークプラグを取り外し、シリンダーに 2 ストロークエンジン用オイルを 5~10cm³ 程注ぎます。
- ◆ キーをイグニッションスイッチの“○”の位置まで回します。
- ◆ イグニッションスイッチ(2)を“○”にし、オイルがシリンダー表面によく行き渡るよう、エンジンスターターボタン“③”(3)を数秒間押します。スパークプラグを取りつけます。



- ◆ バッテリーを取り外します、59 ページ (バッテリーの取り外し)、58 ページ (バッテリーを長期間使用しない時) 参照。
- ◆ 車両を洗車して乾かします、66 ページ (清掃) 参照。
- ◆ 塗装面をワックスで磨きます。
- ◆ タイヤに空気を入れます、33 ページ (タイヤ) 参照。
- ◆ 規定の台を使用して、車両の両輪が浮くように配置します。
- ◆ 直射日光が当たらず、涼しく乾燥していて、温度変化の少ない場所に車両を保管してください。
- ◆ 車体にカバーをかけてください。プラスチックや防水性の材質の物は避けてください。

長期間使用しなかった後は

- ◆ カバーを取り、車両を清掃します、66 ページ (清掃) 参照。
- ◆ バッテリーの充電状態を点検します、59 ページ (バッテリーの充電) 参照、バッテリーを取りつけます、59 ページ (バッテリーの取り付け) 参照。
- ◆ 事前チェックを行って下さい、35 ページ (走行前の点検) 参照。

⚠ 危険

最初の数キロはスピードを押さえて、渋滞のない場所で走り、慣らしてください。

テクニカルデータ

寸法	全長 (最長)	2005 mm
	全長 (最長、リアマッドガードを付けた場合) OPT	1985 mm
	全幅	720 mm
	全高 (フェアリング込み)	1200 mm
	シート高	848 mm
	ホイールベース (軸距)	1302 mm
	最低地上高	170 mm
	車両重量	112 Kg
エンジン	種類	内側が炭化ケイ素およびニッケルメッキ加工されたアルミニウム製 2 ストローク、モノシリンダー
	サイクル	2 ストローク
	総排気量	49 cm ³
	ボア／ストローク	39.88 mm x 40 mm
	圧縮比	11.5 : 1
	エンジンの始動	電動式
	アイドリング回転数	1600 ± 100 rpm
	クラッチ	湿式多板、ハンドル左側にコントロールボタンあり
容量	冷却方式	水冷式
	燃料 (補助も含む)	13 ℓ
	リザーブ燃料	2.0 リットル (メカニカルリザーブ)
	ギアボックスオイル	650 cm ³
	冷却液	1.0 リットル (50% 水溶液 + 50% エチルグリコール不凍液)
	ミキサーオイル (リザーブ含む)	1.5 リットル
	ミキサーオイルリザーブ	0.5 リットル
	フロントフォークオイル	285 cm ³ (シャフトごと)
	座席数	座席 1 (パッセンジャー同乗可能な国では 2)
	最大積載量 (運転手 + 荷物)	105 Kg
	(運転手 + パッセンジャー + 荷物)	180 Kg (パッセンジャー同乗可能な国では)

ギア	種類	6 段変速、エンジン左側のギアチェンジペダルによる切替え
	変速	6
	フォークセクター、アウターセクターで制御されているタイミングドラム	
	比率	
	1 速	11 / 34 = 1: 3.091
	2 速	15 / 30 = 1: 2.000
変速比	3 速	18 / 27 = 1: 1.500
	4 速	20 / 24 = 1: 1.200
	5 速	22 / 23 = 1: 1.045
	6 速	23 / 22 = 1: 0.956
	2 次減速機構	チェーン
	比率	14/53
キャブレター	個数	1
	モデル	マニュアルスターター付き DELLORTO PHVA-17.5
補給	燃料	DIN 51 607 最低オクタン価 95 (N.O.R.M.) 及び 85 (N.O.M.M.) の無鉛ガソリン
フレーム	種類	Delta Box
	ステアリングアングル	25.06°
	トレール	95.62 mm
サスペンション	フロント	伸縮可水圧式フォーク
	ホイールトラベル	112 mm
	リア	油圧シングルアブソーバー
	ホイールトラベル	112 mm
ブレーキ	フロント	ディスク - Ø 300 mm- 水圧式トランスミッション
	リア	ディスク - Ø 180 mm- 水圧式トランスミッション
ホイールリム	種類	軽合金
	フロント	2.75x 17"
	リア	3.50x 17"

タイヤ	フロント	100/80 17"
	- 運転手のみの時の空気圧	170 kPa (1.7 bar)
	- パッセンジャーを乗せる時の空気圧 (*).....	180 ± 10 kPa (1.8 ± 0.1 bar)
	リア	130/70 17"
	- 運転手のみの時の空気圧	190 kPa (1.9 bar)
	- パッセンジャーを乗せる時の空気圧 (*).....	210 ± 10 kPa (2.1 ± 0.1 bar)
イグニッション	種類	CDI
	進角点火方式	20° ± 1° (上死点前)
スパークプラグ	スタンダード	NGK BR9ES
	あるいは	Champion RNC3
	電極間距離	0.5 mm
エレクトリ カルシステム 電動式	バッテリー	12 V - 4 Ah MF
	ヒューズ	7.5 A
	ジェネレーター	12 V - 85 W
電球	ロービーム	12 V - H8
	ハイビーム	12 V - H8
	パーキングランプ (指定された国のみ).....	12V - 5W
	ターンインジケーター	マイクロランプ
	リアパーキングランプ / ナンバープレートランプ / ストップランプ	12 V - 5 / 21 W
	タコメーター照明	12 V - Led
ランプ	ニュートラルギア	12 V - 1.7 W
	ターンインジケーター	12 V - 1.7 W
	ハイビーム	12 V - 1.7 W

(*) (パッセンジャー同乗可能な国では)

指定油脂類表

ギアオイル (推奨):  Agip GEAR SYNTH 75W-90

上記推奨品以外でも、API GL4 - API GL5 規格と同等またはそれ以上の品質のメーカー品オイルを使用する場合は差し支えありません。

ミキサーオイル (推奨):  Agip SPEED 2T

上記推奨品以外でも、API TC 規格、JASO FC 規格、ISO L/EGD 規格同等またはそれ以上の品質のメーカー品オイルを使用する場合は差し支えありません。

フォークオイル (推奨):  Agip FORK 7,5W

フォークの反応の硬度を増すまたは減らす為には、その他にフォークオイル  Agip FORK 5W または  Agip FORK 10W を使用することができます。

ベアリングおよびその他の潤滑油 (推奨):  Agip GR MU 3

推奨品以外のものを使用する場合は、ベアリング用のハイクオリティグリースを使用し、作業温度範囲が -30° C...+140° C、滴点が 150° C...230° C、腐食防止率が高く、水と酸化に強い物を選びます。

バッテリー電極保護用: ワセリンまたは中性グリース

チェーン用スプレーグリース (推奨):  Agip CHAIN LUBE SPRAY

危険

ブレーキオイルは必ず新しいものを使用してください。メーカーの違うオイルや規格の違うオイルを混ぜないでください。

危険

不凍液および防食剤は亜硝酸塩を含まないもので、少なくとも -35 °C までは機能するものを使用して下さい。

エンジン冷却液 (推奨):  Agip ANTIFREEZE PLUS

Aprilia サービスレベル保証

当社は数々の研修や技術者育成システムにより、全ての **aprilia** 製品のメンテナンス / 修理など、お客様のニーズにお答えできる技術者を揃えております。

車両の信頼性は機能コンディションに基づくもので、事前チェックやアプリリアオリジナルパーツを使用しての定期的チェックはお客様に安全なライディングを楽しんで頂くための基本となります。

お問い合わせは、お近くの **aprilia** 正規ディーラー／サービスセンター、またはイエローページ、**aprilia** 社オフィシャルサイトへ：

www.aprilia.com

aprilia オリジナルパーツは部品すべての品質・機能チェックが車両の企画段階から保証されています。**aprilia** オリジナルパーツを使用しての部品交換では、部品すべての品質・機能チェックが保証されています。

この車両を選んで頂いたお客様に **Piaggio & C. S.p.A.** は心からの感謝を申し上げます。

- 環境汚染を防ぐため、オイル、燃料、その他の有害物を無断に放置しないでください。
- 必要時以外はエンジンを消す事を心がけてください。
- 他人に迷惑となる騒音は避けるようにしましょう。
- 自然環境保護を心がけましょう。